

PC 300GL (Type 6561)

オプション・ガイド

SA88-5856-02
(英文原典 : 05L1939)

PC 300GL (Type 6561)

オプション・ガイド

SA88-5856-02
(英文原典 : 05L1939)

— お願い —

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず81ページの付録C、『特記事項』をお読みください。

第 1 版 (1998 年 1 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

原 典： 05L1939
Personal Computer
Installing Options in Your Personal Computer
PC 300GL Type 6561

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1998.5

Copyright International Business Machines Corporation 1998. All rights reserved.

Translation: Copyright IBM Japan 1998

目次

安全に正しくお使いいただくために	v
絵表示について	v
危険/注意ラベルの表示について	v
レーザーの安全性について	x
本書について	xi
本書の構成	xii
関連資料	xiii
第1章 概要	1
使用可能なオプションと機構	2
必要なツール	3
静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い	4
第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備	5
ケーブルの取外しとカバーの取外し	5
構成部品の位置	7
内部図	7
入出力コネクタ	8
第3章 システム・ボードへのオプションの取付け/取外し	9
システム・ボード上のパーツの識別	10
システム・メモリーの取付け/取外し	11
メモリー構成	12
メモリー・モジュールの取付け	13
メモリー・モジュールの取外し	15
マイクロプロセッサの交換	17
第4章 アダプターの取扱い	21
アダプターおよびライザー・カード	22
アダプター構成	23
プラグ・アンド・プレイ・アダプター	23
従来型アダプター	24
アダプターの取付け	25
アダプターからベイ 1, 2, または 3 のドライブへのケーブルの引き回し	28
サイド・カバーの取外し	29
サイド・カバーの再取付け	30



システム・ボードの取り外しおよび再取り付け	31
ファン・アセンブリーの取外しおよび再取り付け	36
アダプターの取外し	38
第5章 内蔵ドライブの取扱い	40
ドライブ仕様	42
電源および信号ケーブル	43
ドライブ・ベイでの作業	45
金属シールドの取外し	46
ベイ・パネルの取付け	48
ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い	49
ドライブ・ケージを回転させる	49
ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け	51
ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し	54
ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す	56
ベイ 4 内のドライブの取扱い	57
ベイ 4 からのドライブの取外し	57
ベイ 4 へのドライブの取付け	59
第6章 機密保護オプションの取扱い	61
わからなくなったパスワードの消去	62
第7章 取付けの完了	66
カバーの再取付けとケーブルの接続	67
装置構成の更新	69
装置構成ユーティリティの開始	70
設定の変更と終了	72
従来型 ISA アダプターの構成	73
始動装置の構成	74
パスワードの設定	75
マイクロプロセッサ速度の設定	76
付録A. 電池の交換	77
付録B. 割込みリソースと DMA リソース	80
付録C. 特記事項	81
商標	81
索引	82

安全に正しくお使いいただくために

本製品を安全に正しくご使用いただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

本製品を正しくご使用いただき、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよび本製品への安全表示については、以下の絵表示をしています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

本製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがあるときは、安全上に関する危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。
このマニュアルに記述されている以外に、危険または注意ラベルによる表示があるときは（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

危険

この機器の中にある電源のカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。

この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあり、電気による危険を招くことがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、およびテレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

危険

電池について

本製品には、システム・ボード上にリチウム電池が使用されています。

電池の交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

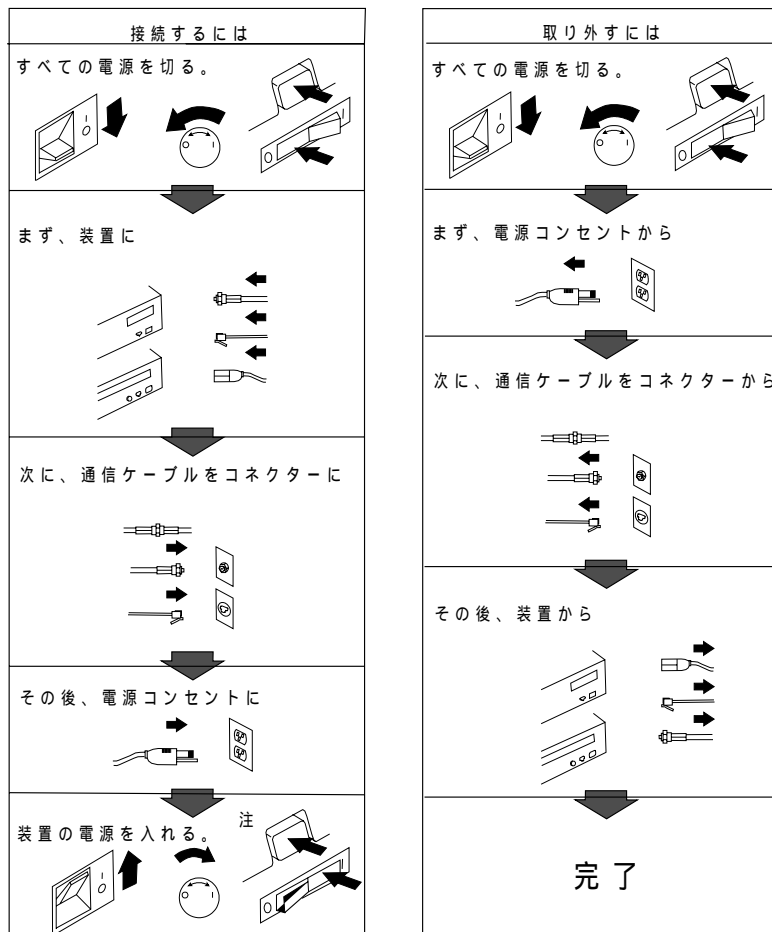
3ピン電源プラグが設置場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使いください。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施行されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお3ピン電源プラグを持つコンピュータで使用することを前提にしているオプション・アダプター・カード (例: LAN アダプター・カード) は接地が必要です。

付属の接地端子付き電源プラグ以外は使用しないでください。また、付属の接地端子付き電源プラグをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

⚠ 危険

ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、以下のようにケーブルの接続、取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの取り外しはしないでください。

注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。（必ずプラグを持って抜いてください。）

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

本体を持ち上げたり、配置を変えたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。

長期間使用しないときは、電源プラグをACコンセントから抜いておいてください。

レーザーの安全性について

IBM パーソナル・コンピューターの一部のモデルには、CD-ROM ドライブが搭載されています。CD-ROM ドライブは、オプションとしても別売されています。CD-ROM ドライブは、レーザーを使用している製品です。CD-ROM ドライブは Class 1 レーザー製品について規定している米国の Department of Health and Services 21 Code of Federal Regulations (DHHS 21 CFR) Subchapter J (保健福祉省連邦法規則 21 副章 j) に準拠しています。それ以外にもドライブは Class 1 レーザー製品の規格である国際電気標準会議 (IEC) 825 および CENELEC EN 60 825 に準拠しています。

CD-ROM ドライブがインストールされている場合は、以下のことに注意してください。

注意

本書で指定された内容以外の制御、調整または手順を行った場合、レーザー放射の危機があります。

CD-ROM ドライブのカバーを開けると、危険なレーザーを浴びる可能性があります。CD-ROM ドライブの内部には、修理の対象となる部品はありません。カバーを開けないでください。

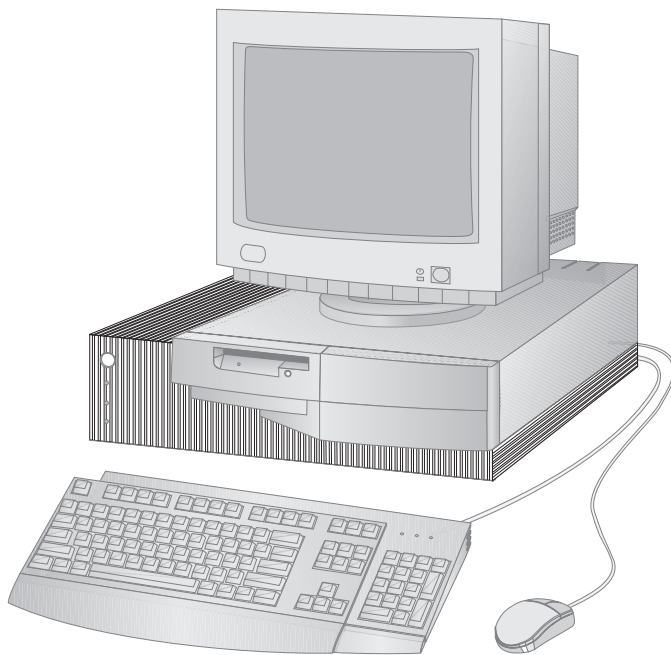
一部の CD-ROM ドライブは、CLASS 3A または CLASS 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。次の点に注意してください。

危険

CD-ROM ドライブのカバーを開けるとレーザーが放射されます。光線を見つめたり、光学器械を使って直接見たりしないでください。また、光線を直接浴びないようにしてください。

本書について

このたびは、IBM パーソナル・コンピューターをお買い上げいただき、ありがとうございます。



本書では、ほとんどのオプションの取付け、取外し、および交換の手順を説明しています。また、コンピューターに追加するオプションの選定に役立つ情報も記載しています。

注: 本書に示されている図は、実際にお手元にあるハードウェアと多少異なる場合があります。

本書の構成

本書は、次の章と付録で構成されています。

第1章、『概要』は、コンピューターのオプションおよび機構について紹介しています。安全に関する注意や取扱いのテクニックについて、オプションの取付けや取外しに必要なツールと合わせて説明してあります。

第2章、『オプションの取付けおよび取外しの準備』は、コンピューターのカバーとケーブルの取外し手順と、作業を行うのに使用する構成部品の位置の確認方法について説明しています。

第3章、『システム・ボードへのオプションの取付け/取外し』では、システム・ボード上のオプションの位置確認、アクセス、および扱い方法について説明します。

第4章、『アダプターの取扱い』では、アダプターの取付けおよび取外し方法について説明します。

第5章、『内蔵ドライブの取扱い』では、内蔵ドライブの取付けおよび取外し方法について説明します。

第6章、『機密保護オプションの取扱い』は、分からなくなったパスワードの消去について説明します。

第7章、『取付けの完了』では、オプションの取付けが済んだ後でコンピューターを組み立て直す手順について記載しています。装置構成ユーティリティーの使用法についても説明しています。

付録A、『電池の交換』は、バックアップ電池の交換方法および電池の取扱いと廃棄に関する注意事項を記載しています。

付録B、『割込みリソースと DMA リソース』では、本製品の省略時割込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースを記載しています。

付録C、『特記事項』では、IBM の特記事項および商標を記載しています。

関連資料

本書の他に、以下の資料に本製品についての情報が記載されています。

セットアップ・ガイド

この資料には、本製品をセットアップするための手順が示されています。

ユーザーズ・ガイド

この資料には以下が含まれています。

- コンピューターの構成、操作、および保守に関する説明。
- コンピューターに生じた問題の診断と解決、に関する情報。

解説書

このオンライン資料 (サポート CDおよび初期導入済みソフトウェアで提供) には、パーソナル・コンピューターの使用法についての一般的な説明と、本製品に特有な機能についての詳しい説明があります。この資料の印刷されたものを購入する場合は、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

初期導入済みソフトウェアについて

このマニュアル (初期導入済みソフトウェアのあるコンピューターにのみ付属しています) には、その初期導入済みソフトウェア・パッケージに関する情報およびサポート CD の使用方法が記載されています。

以下の資料には、本製品に関する追加情報が記載されています。

保守マニュアル

この別途購入資料には、専門知識のある保守技術者向けの情報が 있습니다。購入する場合は、別冊の「IBM サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

第1章 概要

コンピューターに別売りのオプションを取り付けることにより、簡単に機能を拡張できます。オプションや機構の取外し、取付け、交換方法についても、本書で説明しています。オプションを取り付ける際は、本書の手順と合わせて、オプションに付属のマニュアルもお読みになってください。すでに取り付けているオプションがある場合には、詳しい手順を読まなくとも、ある程度の作業を実行できることもあります。

この章では、本書で説明しているオプションや機構の概要を記載しています。また、必要なツール、電気に関する安全のための注意、および静電気の影響を受けやすい装置に関する重要な情報も記載されています。

重要

オプションの取付けまたは取外しを行う前に、この章に記載されている安全上の注意や構成部品の取扱いの指示をよく理解しておいてください。これらの注意や指針は、安全に作業を進める上で役立ちます。

本製品の使用法、操作方法、保守に関する一般的な情報については、*ユーザーズ・ガイド*を参照してください。*ユーザーズ・ガイド*には、問題を解決したり修理サービスを受ける際に役立つ情報も含まれています。

使用可能なオプションと機構

本書で説明している使用可能なオプションと機構のいくつかを、以下に示します。

システム・ボード構成部品

- システム・メモリー。デュアル・インライン・メモリー・モジュール(DIMM) と呼ばれる。
- CMOS のクリアおよび分からなくなったパスワードを消去するためのジャンパー
- フラッシュ回復ジャンパー
- 電池

アダプター

- ISA アダプター
- PCI アダプター

内蔵ドライブ

その他のオプションも弊社から入手可能です。その中のひとつとして、フロア・スタンド、ボトム・カバー、およびリア・カバーを含むオプションがあります。これらのオプションは本書では扱われていませんが、詳細な取付け説明が付属しています。

以下は、本製品で使用可能な他のオプションおよび機構の一部です。詳細については、オプションのハードウェアに付属の資料を参照してください。

本製品は *Wake on LAN* 対応アダプターを使用すればリモートから始動することができます。Wake on LAN に関する詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

電源管理に役立てるためモデム・オプションを追加し、モデムによってリングが検出されたときにコンピューターを始動させることができます。装置構成ユーティリティーを使ってその設定をすることができます。外部モデム・オプションの場合は、「モデムの着信 (シリアル・ポート A)」を、内蔵モデム・オプションの場合は、「モデムの着信 (内蔵モデム)」を、それぞれ「する」に設定します。詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

弊社はお客様のコンピューターのドライブ、ケーブルならびにその他のオプションの選択を援助いたします。使用可能なオプションに関する最新情報については、お買上げの販売店または弊社営業担当員にお問い合わせください。

IBM はワールド・ワイド・ウェブ (WWW) 上にページを設定しており、IBM 製品およびサービスに関する情報の入手、最新技術情報の検出、ならびにデバイス・ドライバーおよび更新のダウンロードを行うことができます。以下に、ホーム・ページの一部を示します。

http://www.ibm.co.jp	IBM ホームページ
http://www.ibm.co.jp/pc	IBM パーソナル・コンピューター・ホームページ
http://www.ibm.co.jp/pc/desktop	IBM PC/IntelliStation ホームページ
http://www.ibm.co.jp/pc/pcserver	IBM PC Server ホームページ
http://www.ibm.co.jp/pc/option	IBM PC 周辺機器ホームページ
http://www.ibm.co.jp/pc/thinkpad	IBM Thinkpad ホームページ

必要なツール

コンピューターにオプションを取り付けたり、取り外したりする際には、マイナスのドライバーが必要です。それ以外の必要なツールは、特定のオプションにより異なるため、各オプションに付属の説明書に記載されています。

静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い

カーペット敷きの床を歩いているときに何かに接触して小さな電気ショックを受けた経験はありませんか。これが静電気です。静気は人体には無害ですが、本製品の構成部品やオプションには損傷を与える場合があります。

重要

オプションを取り付ける際には、指示があるまでオプションが入っている静電気防止袋を開けないでください。

静電気による損傷を回避するために、オプションやその他の構成部品を取り扱う際には、以下の注意を守ってください。

身体の動きを最小限にとどめます。動作が多いと、周囲に静電気が帯電する可能性があります。

構成部品は常に注意して取り扱います。アダプターやメモリー・モジュールを扱うときは、端を持ってください。回路の露出部には決して手を触れないでください。

他の人が構成部品に触れないようにします。

新たにオプションを取り付ける際は、オプションが入っている静電気防止袋を、本体の金属製拡張スロット・カバーかその他の塗装されていない金属面に2秒間以上接触させます。これによって、パッケージや人体の静電気を少なくすることができます。

オプションの取外しと取付けを行う際には、オプションはできるだけ下に置かずに直接本体に取り付けます。やむをえずオプションを他の場所に置かなければいけない場合は、そのオプションが入っていた静電気防止袋を凹凸のない平らな面に置き、その上にオプションを置くようしてください。

本体のカバーやその他の金属面の上にオプションを置かないようにします。

第2章 オプションの取付けおよび取外しの準備

この章では、取付けまたは取外しを行いたいオプションの位置の確認手順を記載しています。

ケーブルの取外しとカバーの取外し

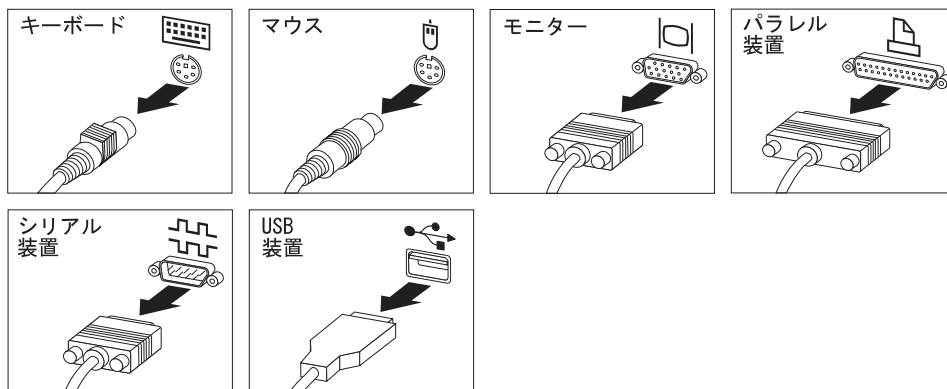
作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

ドライブからあらゆる媒体（ディスケット、コンパクト・ディスク、テープ）を取り出し、次に、すべての接続装置とコンピュータの電源をオフにします。

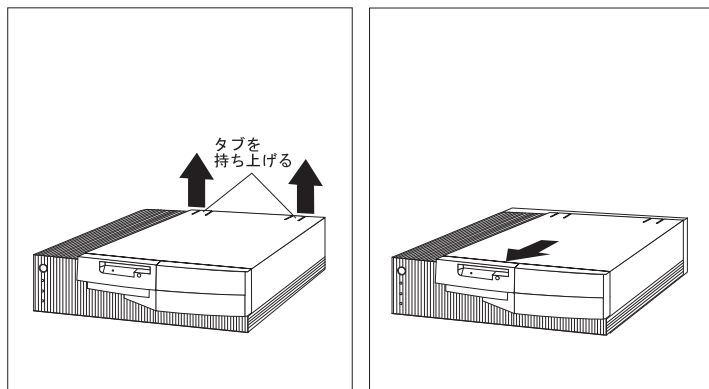
- 1 コンピューターに接続しているケーブルをすべて取り外します。これには、電源コード、入出力 (I/O) ケーブルおよびコンピュータに接続されるその他のケーブルが含まれます。

注: ユニバーサル・シリアル・バス (USB) を含む、ポートに関する詳細については、**解説書**を参照してください。¹

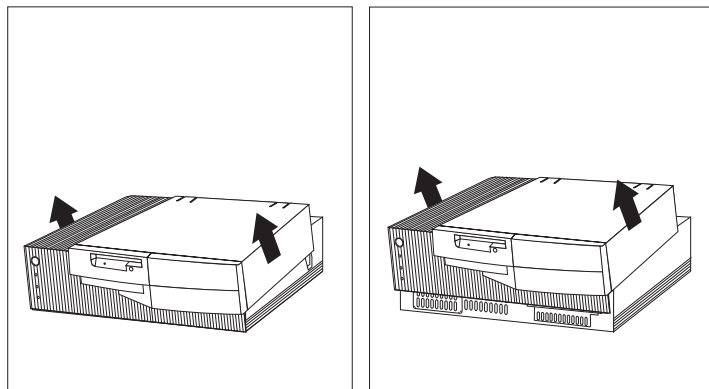


¹ 解説書に関する詳しいことは、xiiiページの『関連資料』を参照してください。

- 2** コンピューター・カバーの背部にあるタブを見つけてそれらを持ち上げ、そしてカバーをゆっくり手前に引いて後端を解放します。次に、カバーの側面を持ち、1 ~ 2 cm 前方に引きます。



- 3** カバーの後端を持ち上げ、解放されるまで前方斜め上にスライドさせます。



構成部品の位置

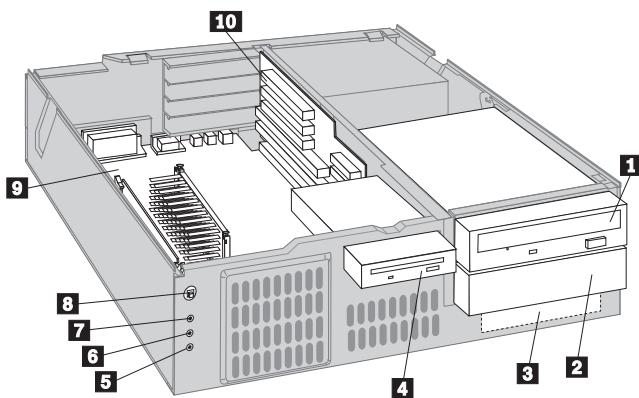
以下の情報によって各構成要素の位置を確認してください。オプションの取付けや入出力装置の接続が必要となった場合に参考にしてください。

内部図

以下の図は、正面から見たときのコンピューターの内部を示しています。カバーの取外し方については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください。

注: 以下の図は単に参照用として描かれています。

- 1 ドライブ・ベイ 1
- 2 ドライブ・ベイ 2
- 3 ドライブ・ベイ 3
- 4 ドライブ・ベイ 4
- 5 LAN 状況ランプ²
- 6 ハード・ディスク・ドライブ・ランプ
- 7 電源ランプ
- 8 電源スイッチ
- 9 システム・ボード
- 10 拡張スロットを備えたライザー・カード



ユーザーのコンピューターには、ベイ 4 にディスク・ドライブが設置され、ベイ 3 にはハード・ディスクが設置されています。コンピューターに CD-ROM ドライブが付属している場合には、それはベイ 1 に取り付けられています。

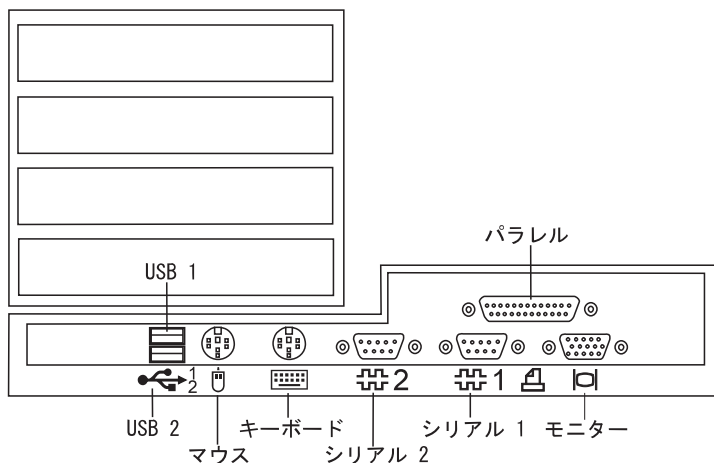
ドライブ・ベイの詳細については、49ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』および 57ページの『ベイ 4 内のドライブの取扱い』を参照してください。

² LAN 状況ランプは使用されません。このランプは、ネットワーク・アダプターを本製品に取付けた場合でも、アクティブになることはありません。

入出力コネクタ

入出力 (I/O) コネクタは、コンピューター から情報を出し入れするためのポートを提供しています。コンピューターには、モニター、キーボード、マウス、プリンターを含め、各種の入出力装置を接続できます。ポートおよびそれぞれの特定テクノロジーに関する詳細については *解説書* を参照してください。

コンピューター の背面には、I/O コネクタが装備されています。拡張スロットに取り付けられているアダプターにより I/O コネクタが提供される場合もあります。以下の図は、コンピューター背面にある外部コネクタの場所を示しています。



第3章 システム・ボードへのオプションの取付け/取外し

本章は、本書で解説されているシステム・ボード・オプションに関する説明を行います。

本章の情報は、システム・ボード上の部品を識別するのに役立ちます。また、システム・ボード上へのオプションの設置手順も提供されています。たとえば、システム・メモリーを取り付けるためにはシステム・ボードで作業を行う必要があります。

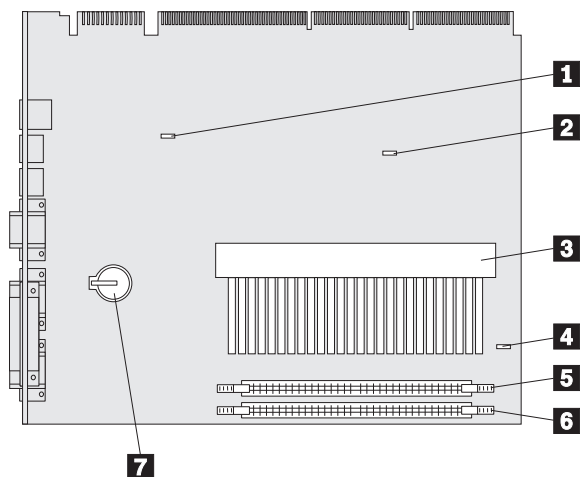
本章は、システム・ボード構成要素 (具体的にはシステム・メモリーおよびマイクロプロセッサ) の取付け、取外し、および交換に関する説明も行います。他のシステム・ボード構成要素については、該当するセクションを参照してください。

システム・ボード上のパーツの識別

システム・ボードは、プレーナーまたはマザーボードともいいますが、コンピューターの主要部品です。このボードは、基本的なコンピューター機能を提供し、標準装備の装置や、オプションで導入することのできるさまざまな装置をサポートします。

コンピューターへのハードウェアの取付け、取外し、または交換を行う場合は、システム・ボードのレイアウトを知っておく必要があります。次の図には、コンピューターのシステム・ボードのレイアウトが示されています。番号の付けられた引き出し線は、本書で解説されている各構成部品を示しています。

- 1 回復ジャンパー
- 2 CMOS クリア・ジャンパー
- 3 マイクロプロセッサ・コネクタ
- 4 資産情報 EEPROM 書き込み保護ジャンパー
- 5 メモリー・モジュール・コネクタ 0 (Mem 0)
- 6 メモリー・モジュール・コネクタ 1 (Mem 1)
- 7 電池



注:

1. システム・ボードの図は、コンピューター カバーの裏側にあるラベルに記載されています。
2. 資産情報 EEPROM 書き込み保護ジャンパーは、通常はピン 2 および3 にあります。この位置では、資産情報 EEPROM は書き込み保護されていません。

システム・メモリーの取付け/取外し

コンピューターにメモリーを増設してシステムのパフォーマンスを上げることができます。このコンピューターは、システム・メモリー・モジュールを取り付けるためのコネクタを2つ持ちます。コンピューターがサポートしているシステム・メモリーの最大容量は、256 MBです。

注:

コンピューター内部のメモリー・コネクタの位置に関しては、10ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。



コンピューターが使用するメモリー・モジュールは、デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) です。ご使用のコンピューターに標準装備の DIMM は、パリティなし (NP) または ECC (エラー訂正コード) SDRAM (同期動的ランダム・アクセス・メモリー) モジュールです。

注: パリティなし (NP) および ECC DIMM が混在する場合は、ECC は使用不可となります。

DIMM の増設または交換を行うときは、以下の規則にしたがってください。

3.3 ボルトの、バッファなし DIMM のみを使用します。

各メモリー・コネクタは最大 128 MB の SDRAM をサポートします。

ECC を使用可能とするためには、ECC SDRAM DIMM のみをインストールします。

メモリー構成

メモリーの追加または取外しを行うときは、16, 32, 64, または 128 MB の任意のサイズの DIMM の組合せを使用することができます。守らなければならない基本的規則は、*Mem 0* から始めて各システム・メモリー・コネクタを順番に埋めていくことです。

以下の表はご使用の コンピューター に推奨されるメモリー構成を示しています。この表およびその他の情報が コンピューター カバーの裏側にもあります。前述の規則にしたがっていれば、以下の表以外の構成も可能です。

注: 以下の表の値は、メガバイト (MB) で表わされています。

合計メモリー (MB)	Mem 0	Mem 1
16	16	0
32	32	0
32	16	16
48	16	32
64	32	32
80	16	64
96	32	64
128	64	64
144	16	128
160	32	128
192	64	128
256	128	128

メモリー・モジュールの取付け

作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

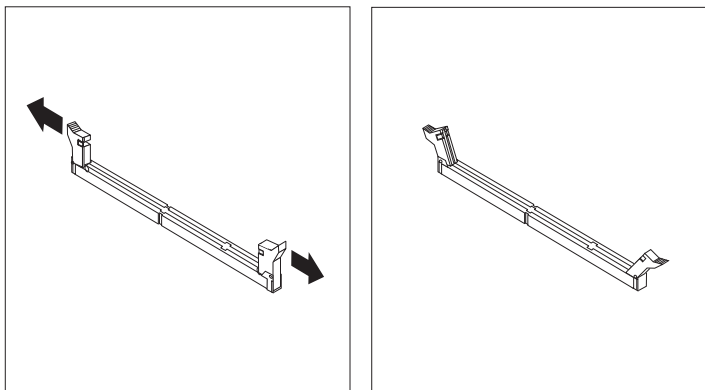
増設するシステム・メモリー・オプションに付属の説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

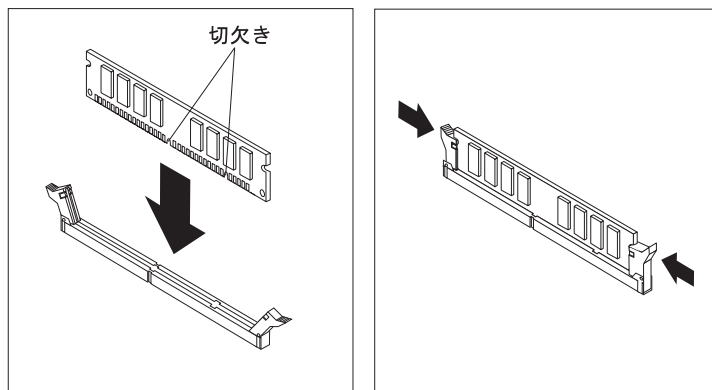
注: メモリー構成に関しては、12ページの表1を参照してください。

- 1 以下の2番目の図に示されているとおり、必ず、留めクリップがオープンになるようにします。留めクリップがコネクタに対して垂直になっている場合には、オープンの位置になるまで、外側に押し開いてください。



- 2 メモリー・モジュールが入っている静電気防止袋をコンピューター本体の塗装されていない金属面に接触させてから、モジュールを取り出します。
- 3 モジュールの下部の端にある切欠きがコネクタの位置に正しく合うように、コネクタの上方でモジュールの位置を定めます。

- 4** 留めクリップが飛び出して、モジュールの両端にぴったりはまるまで、モジュールをまっすぐコネクタにはめ込みます。(このとき、メモリー・モジュールがコネクタから浮いていないことを確認してください。)



- 5** 他のメモリー・モジュールの取り付けも、ステップ 1~4 を繰り返します。
- 6** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けたメモリーに関する情報を記録してください。

— 次の手順 —

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。
取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

メモリー・モジュールの取外し

重要: コンピューター・カバーを開ける前に壁から電源コードを外さないと、5 V の待機電力がハードウェアに損傷を与える場合があります。

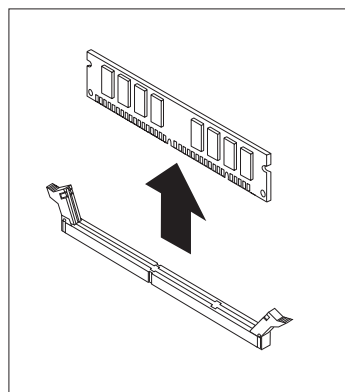
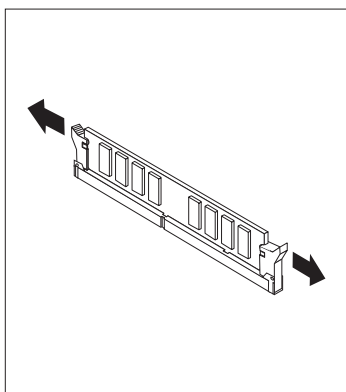
作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 10ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照して、コンピューター内部のメモリー・コネクタを確かめてください。
- 2 メモリー・モジュール・コネクタの両端の留めクリップを、モジュールが緩くなるまで外側に押します。
注: 留めクリップを強く押しすぎないように注意してください。モジュールが突然コネクタから飛び出すことがあります。
- 3 メモリー・モジュールをコネクタから取り上げます。



- 4 モジュールを静電気防止袋に保管します。

— 次の手順 —

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

マイクロプロセッサの交換

重要: コンピューター・カバーを開ける前に壁から電源コードを外さないと、5 V の待機電力がハードウェアに損傷を与える場合があります。

このコンピューターは、システム・ボード上に Intel Pentium II マイクロプロセッサまたは Intel Celeron マイクロプロセッサが取り付けられています。これらのマイクロプロセッサは MMX テクノロジーを備え、よく似ていて、システム・ボード上に同じように取り付けられています。

コンピューターにどちらのマイクロプロセッサが取り付けられているかにより、マイクロプロセッサの近くにファンが取り付けられていないことがあります。

本製品で使用できるマイクロプロセッサのアップグレードに関する最新情報については、お買上げの販売店または弊社営業担当員にお問い合わせください。マイクロプロセッサをアップグレードする場合は、本書に記載されている手順と合わせて、アップグレードに付属してくる説明書を使用してください。

注意

マイクロプロセッサおよびヒート・シンクは、コンピューターが稼動中は熱くなります。コンピューターがオンになっている場合には、やけどを防ぐために、マイクロプロセッサとヒート・シンクを **10** 分間冷やしてから、この手順を続行してください。

作業を開始する前に

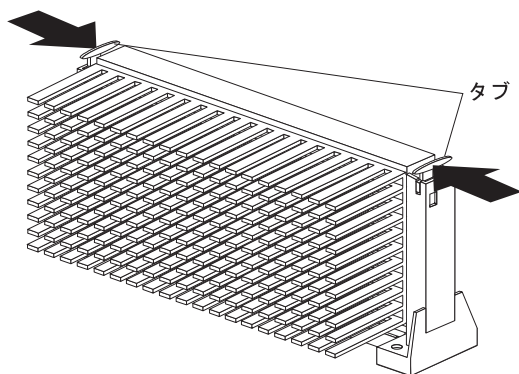
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

新しいマイクロプロセッサに付属の説明書をお読みください。

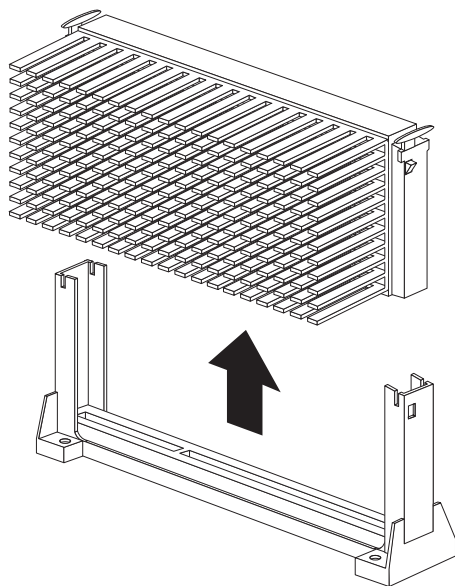
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

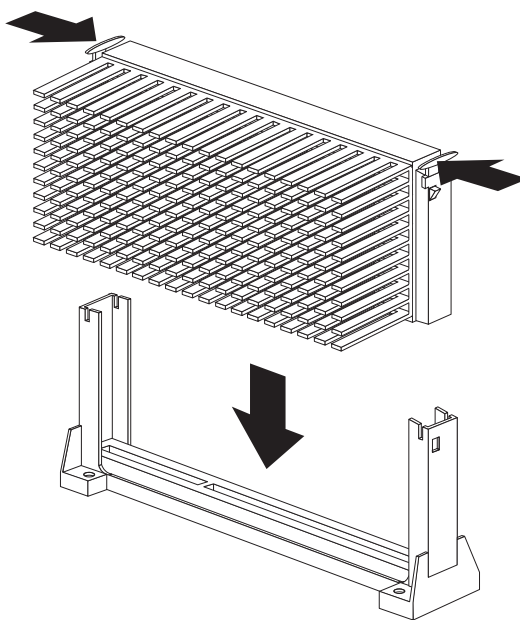
- 1 マイクロプロセッサ・ソケットの位置については、10ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。
- 2 人さし指をマイクロプロセッサの上部にある小さいタブにもっていきます。タブが解放されるまで内側に押し込みます。



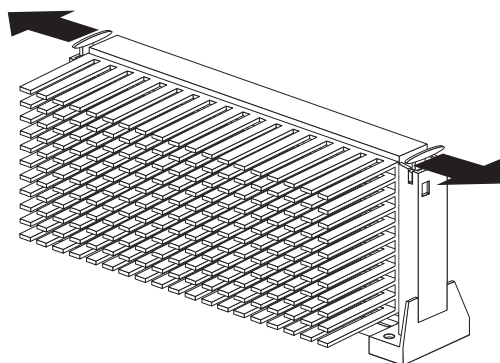
- 3 片方の手でコンピューター・フレームを慎重に押さえ、もう一方の手でマイクロプロセッサをコネクタから引き上げます。



- 4 取り外したマイクロプロセッサを静電気防止袋に保管します。
- 5 新しいマイクロプロセッサが入っている静電気防止袋を コンピューター の塗装されていない金属面に接触させてから、新しいマイクロプロセッサを袋から取り出します。
- 6 所定位置にはまるまで保持タブを押します。
- 7 マイクロプロセッサをシステム・ボード上のコネクタとそろえ、ガイドに滑り込ませます。マイクロプロセッサがコネクタ内にはまるまで押し下げます。



8 保持タブを外側に引っ張ります。



- 9** マイクロプロセッサを異なる速度のものと交換した場合は、装置構成ユーティリティを使用してマイクロプロセッサの速度設定値を変更する必要があります。マイクロプロセッサの設計値より高速を選択しないでください。不測の事態またはハードウェアが損傷する可能性があります。69ページの『装置構成の更新』および76ページの『マイクロプロセッサ速度の設定』を参照してください。

注: コンピューターをスタートしたときに、167 POST エラーが起きた場合は、「ユーザーズ・ガイド」の「システム BIOS の更新」を参照して、システム・プログラムのフラッシュ・アップデートを行ってください。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

第4章 アダプターの取扱い

この章では、アダプターの取付けおよび取外しについて説明します。

アダプターの取付けまたは取外しの際には、発生するリソースの競合を解決することが重要です。たとえば、従来型 ISA アダプターを取り付ける場合には、アダプター上の各種スイッチを設定したり、装置構成ユーティリティを使用して、アダプターを手動で設定する必要があります。

重要情報

アダプターを取り付ける前に、コンピューター構成を一覧表示する ConfigSafe (または類似アプリケーション) を実行します。これによって、アダプターの取付け後にコンピューター構成における変更点を表示、比較することができます。また、取付け後にアダプターの構成に関する問題が生じた場合は、ConfigSafe によって構成を元の設定値に復元することができます。

ConfigSafe は本製品の初期導入済ソフトウェアの一つです。詳細については、本製品付属の初期導入済ソフトウェアについてを参照してください。

マイクロプロセッサの近くで作業を行うときは注意してください。通常の使用中、マイクロプロセッサは非常に高温となります。

現在では、多くのアダプターがプラグ・アンド・プレイ 技術を採用しており、コンピューターがアダプターを自動的に設定して、必要なリソースを利用可能にするようになっています。アダプターに付属している説明書を参照して、そのアダプターがプラグ・アンド・プレイ対応かどうかを判別してください。詳細については、23ページの『アダプター構成』を参照してください。

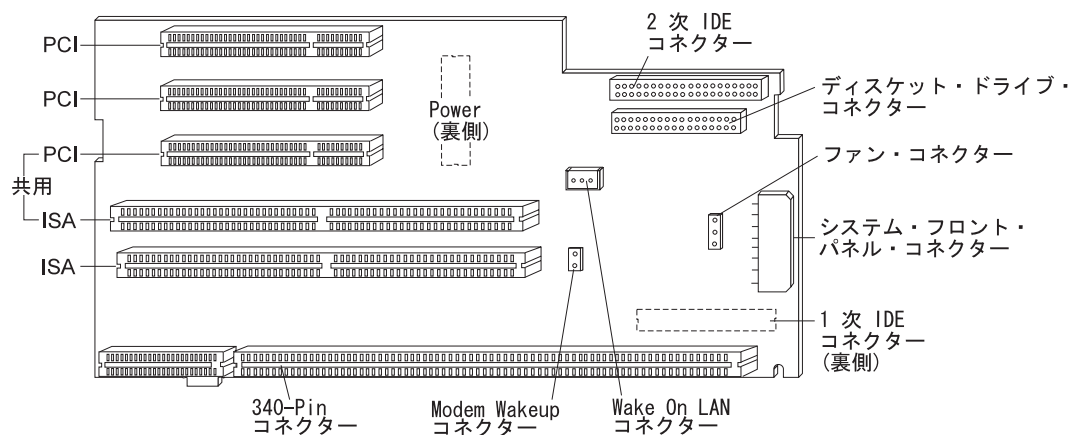
アダプターおよびライザー・カード

本製品は、拡張スロットのためにライザー・カードを使用しています。ライザー・カードには、ISA バスと PCI バスにアダプターを接続する拡張スロットが組み込まれています。

さまざまなアダプターをライザー・カードの拡張スロットに取り付けることができます。ライザー・カードの位置については、7ページの『構成部品の位置』を参照してください。

このコンピューター・カードは、ISA スロット2つとPCI スロットを3つ持ちます。上から3番目の PCI コネクターは、そのすぐ下のISA コネクターとスロットを共用しています。他のスロットは、ISA バス専用または PCI バス専用です。共用スロットにはアダプターを1つだけ取り付けることができ、合計 4スロットです。

以下の図はライザー・カード上の拡張スロットおよびコネクターを示しています。



注:

1. ディスケットおよび IDE ドライブ・コネクターもライザー・カード上にあります。オプションのドライブを取り付けるときは、この図を参照してください。
2. モデム・ウェイクアップ (Modem Wakeup) コネクターに接続するケーブル側コネクターが 4 ピンの場合には、その 4 ピンの内、使用しない 2 ピンが下側 (システム・ボード側) になるように接続してください。ケーブルがモデム・ウェイクアップ・コネクターに正しく接続されていない場合には、コンピューターは電源をオフにする度に自動的に再始動する場合があります。

アダプター構成

アダプターの構成の際には、アダプターに付属している資料とともに、下記の情報も参照してください。

プラグ・アンド・プレイ・アダプター

プラグ・アンド・プレイは、コンピューターの拡張を容易にする構成方法です。プラグ・アンド・プレイのサポート機能は、コンピューターのシステム・ボードに内蔵されています。

アダプターがプラグ・アンド・プレイである場合には、アダプター上に設定するスイッチやジャンパーはありません。プラグ・アンド・プレイ・アダプターのメモリーには、アダプターの構成情報が組み込まれており、始動時に、コンピューターに導入情報を提供します。プラグ・アンド・プレイ・アダプターの取付けまたは取外しの際に、プラグ・アンド・プレイ技術をサポートする基本入出力システム (BIOS) により、この情報が解釈されます。必要なリソースが利用可能な場合には、BIOS ソフトウェアは、他の装置によってすでに使用中のリソースを避けて、アダプターを自動的に構成します。

PCI スロット用に設計されたアダプターはプラグ・アンド・プレイ装置です。多くの ISA アダプターはプラグ・アンド・プレイ装置ではありません。

注:

1. プラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り付けた後にリソースの競合が発生した場合には、アダプターのデフォルトのリソース設定を変更する必要があります。詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

従来型アダプター

プラグ・アンド・プレイ対応でないアダプターは**従来型アダプター**と呼ばれます。従来型アダプターを取り付ける場合には、アダプター上のスイッチを設定したり、装置構成ユーティリティーを使用してシステム・リソースを割り振ることによって、アダプターを手動で構成する必要があります。

装置構成ユーティリティーでは、ISA リソース画面で、アダプターが使用するリソースを割り振ります。

- メモリー・リソース
- I/O ポート・リソース
- DMA リソース
- 割込みリソース

画面上で、取り付けるアダプターが利用可能なリソースを選択することができます。従来型 ISA アダプターが使用しないリソースは、[使用可]とリストされます。新しく取り付ける従来型 ISA アダプターが使用するリソースを[**ISA** で使用中]に設定しなければなりません。これによって、ソフトウェアが、これらのシステム・リソースを従来型アダプターに使用できるようになり、BIOS がシステムまたはその他のプラグ・アンド・プレイ・アダプターのためにこれらのリソースを使用することを妨げます。

従来型 ISA アダプターを取り付けるときにシステム・リソースを変更するように、従来型 ISA アダプターを取り外すときもリソースを変更しなければなりません。従来型のアダプターを取り外す場合には、使用していたリソースの設定を[使用可]に戻してください。これによって、これらのリソースを、プラグ・アンド・プレイ・ソフトウェアが将来の構成で自動的に使用したり、手動の構成時に使用できるようになります。

注: 必要なシステム・リソースの詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。

従来型 ISA アダプターの構成に関しては、73ページの『従来型 ISA アダプターの構成』または *ユーザーズ・ガイド* を参照してください。リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

アダプターの取付け

重要: コンピューター・カバーを開ける前に壁から電源コードを外さないと、5 V の待機電力がハードウェアに損傷を与える場合があります。

作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

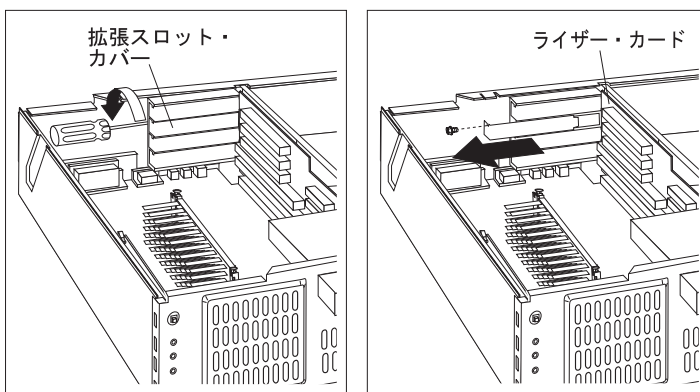
新しいアダプターに付属の説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

アダプターを取り付けるには、サイド・カバー、システム・ボード、およびファンを取り外さなければならない場合もあります。

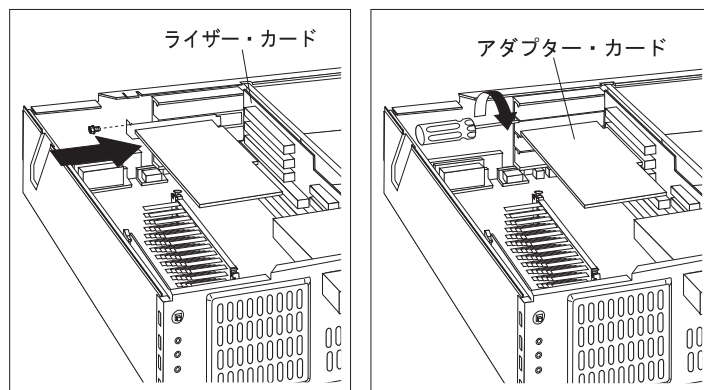
- 1 アダプター付属の説明書を読み、ISA または PCI のいずれのスロットに取り付けるかを判別します。
- 2 該当する拡張スロットのねじとカバーを外します。拡張スロットのねじの位置が分からない場合には、29ページの『サイド・カバーの取外し』を参照してください。



- 3 アダプターが入っている静電気防止袋をコンピューターの塗装されていない金属面に接触させてから、アダプターを袋から取り出します。

- 4** アダプターをライザー・カード上の該当するスロットに取り付け、ねじで固定します。PCI アダプターの部品搭載面はシステム・ボードに対して下向きとなり、ISA アダプターの部品搭載面は上向きとなります。取付けの際に、コンピューターまたはアダプターの部品が邪魔になる場合には、別のスロットを使用してください。

フル・サイズの ISA アダプターを一番下の拡張スロットに取り付ける場合は、サイド・カバー、システム・ボードおよびファン・アセンブリーを取り外す必要があります。29ページの『サイド・カバーの取外し』 および 31ページの『システム・ボードの取り外しおよび再取り付け』を参照してください。



注:

- a. アダプターからのケーブルをドライブ・ベイ 1, 2, または 3 に接続する必要がある場合は、ドライブ・コネクターへアクセスするためのドライブ・ケージの回転方法について、49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』を参照してください。また、コンピューター内部でのケーブルの引き回しについて、28ページの『アダプターからベイ 1, 2, または 3 のドライブへのケーブルの引き回し』を参照してください。
- b. 内蔵モデムを取り付け、モデム・ウェイクアップ機能を利用する場合には、配線に関する重要な情報が、22ページの"注"に記述されていますので参照してください。

次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」で、取り付けたスロットの横にアダプター名を書き込みます。

サイド・カバー、システム・ボードおよびファンを取り外した場合は、30ページの『サイド・カバーの再取付け』および31ページの『システム・ボードの取り外しおよび再取付け』を参照してください。

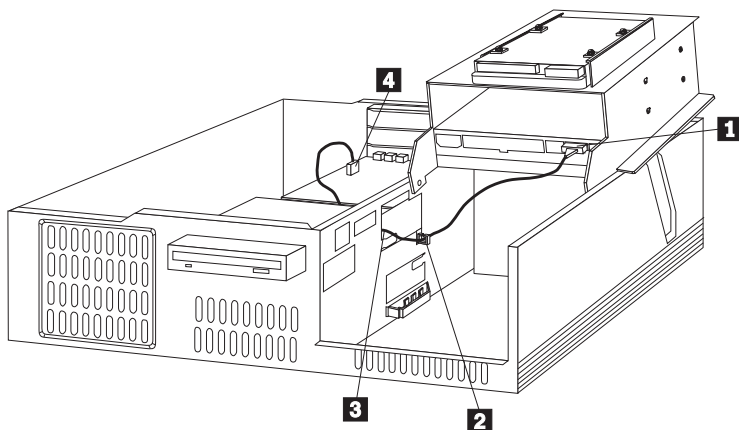
別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

アダプターからベイ 1, 2, または 3 のドライブへのケーブルの引き直し

以下の説明に従い、ベイ 1, 2, または 3 に取り付けられているドライブからケーブルをアダプターまで引き回します。ドライブのコネクターに対して作業を行うには、49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』にある説明に従ってドライブ・ケージを回転させます。

以下の図は、ベイ 1 に取り付けられた CD-ROM ドライブからオーディオ・アダプターに接続したケーブルの引き回しを示しています。(ドライブ・ケージは回転された位置で示されています。)



- 1 ケーブルをドライブに接続します。
- 2 ケーブルを、小さいプラスチック製クランプを通して引き回します。
- 3 ケーブルをドライブ・ブラケットを通して、またライザー・カードの回りを巡らして配線します。
- 4 ケーブルをアダプターに接続します。

次の手順

サイド・カバー、システム・ボードおよびファンを取り外した場合は、30ページの『サイド・カバーの再取付け』および 31ページの『システム・ボードの取り外しおよび再取付け』を参照してください。

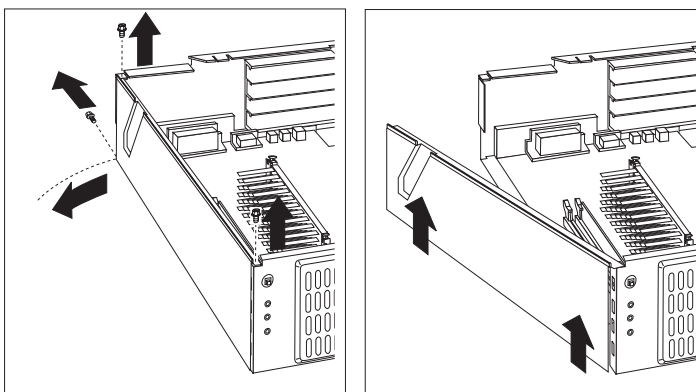
別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。

取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

サイド・カバーの取外し

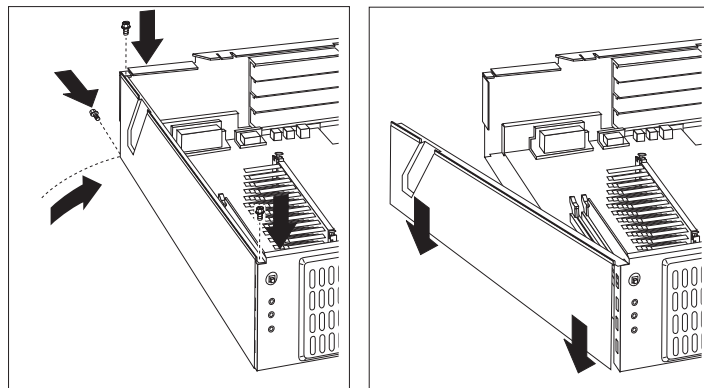
拡張スロットのねじに手が届かない場合には、コンピューターのサイド・カバーを取り外す必要があります。

- 1** サイド・カバーからねじ (最大 3 本) を外してください。サイド・カバーを取り付けるためのねじが 3 本使用されていない製品もあります。
- 2** 扉を開くようにしてサイド・カバーを開きます。
- 3** サイド・カバーを開いたら、上部を少し持ち上げてサイド・カバーを取り外します。



サイド・カバーの再取付け

- 1 サイド・カバーを少し開いた状態で保持し、サイド・カバーの突起部のある側とスロットをそろえます。
- 2 突起部をスロットにはめ、サイド・カバーを閉じます。



- 3 各ねじ穴をそろえ、ねじを挿入します。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。
取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

システム・ボードの取り外しおよび再取り付け

一部のアダプターを取り付けるには、システム・ボードを取り外さなければならない場合があります。

システム・ボードは、2本のレールの上に取り付けられており、レールの上を滑らしてコンピューターから出し入れすることができます。レールおよび左側のレール上のラッチ機構は、すべてのモデルで同じです。システム・ボードの右側のレールには2種類のスタイルがあります。

スタイル1には、ラッチ機構がありません

スタイル2には、システム・ボードを正しい位置に保持するためにシャシー内の開口部でかみ合うタブが付いています。

以下の手順は、両方のスタイルについて記述しています。

システム・ボードを取り外すには、次のようにします。

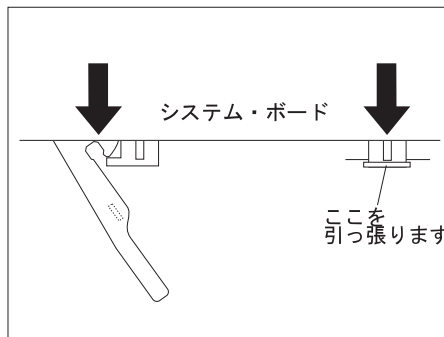
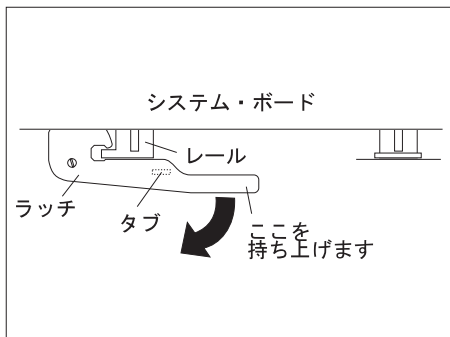
- 1** システム・ボードを取り外す前に、電源コードを抜きます。
- 2** サイド・カバーを取り外します。(29ページの『サイド・カバーの取外し』を参照してください。)

スタイル 1

- 1 左側のレール上で、システム・ボードのラッチ・ハンドルを上方に持ち上げ、ハンドルの下部のプラスチック・タブをシャシーから外します。
- 2 ラッチをつかみ、時計回りに回して、いっぱいに開きます。これで、システム・ボードはライザー・カードから外れます。
- 3 システム・ボードを支持している両方のレールをつかみ、システム・ボードを注意深く引き出し、わきに置きます。

注意:

システム・ボードを取り外すのに、マイクロプロセッサ、メモリー・モジュール、メモリー・ソケット、または他のシステム・ボード構成要素の上を引っ張らないでください。

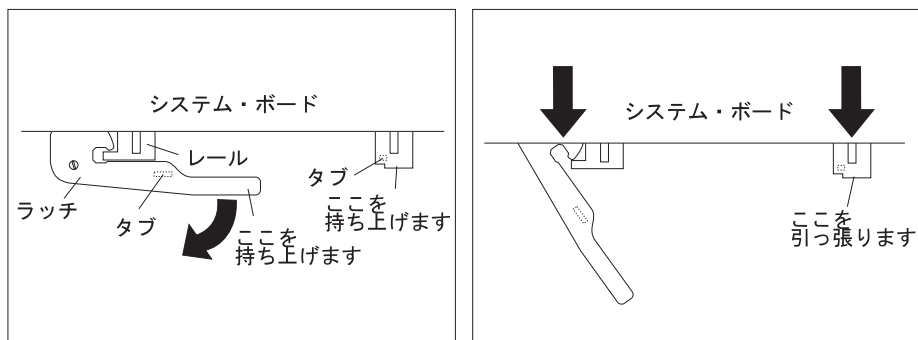


スタイル 2

- 1 左側のレール上で、システム・ボードのラッチ・ハンドルを上方に持ち上げ、ハンドルの下部のプラスチック・タブをシャシーから外します。
- 2 右側のレールの端を持ち上げ、シャシーの下部からプラスチック・タブを外します。
- 3 ラッチをつかみ、時計回りに回して、いっぱいに開きます。これで、システム・ボードはライザー・カードから外れます。
- 4 システム・ボードを支持しているレールをつかみ、システム・ボードを注意深く引き出し、わきに置きます。

注意:

システム・ボードを取り外すのに、マイクロプロセッサ、メモリー・モジュール、メモリー・ソケット、または他のシステム・ボード構成要素の上を引っ張らないでください。



システム・ボードを再取り付けするには、次のようにします。

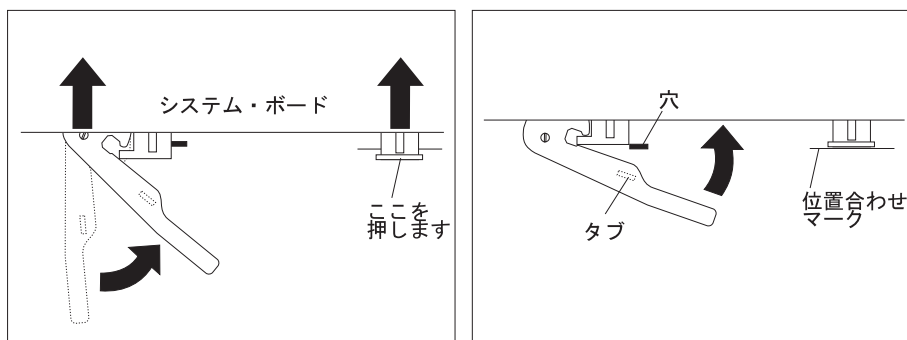
スタイル 1

- 1 システム・ボードのラッチ・ハンドルがいったいに開いた位置にあることを確認します。
- 2 システム・ボードのレールをシャシーのトラックに合わせます。レールをつかみ、ボードをライザー・カードのエッジ・コネクタから約 6 mm になるまで押し入れます。
- 3 システム・ボードがライザー・カードのエッジ・コネクタと正しく位置が合うまで、ラッチ・ハンドルを反時計方向に回します。右側のレールの端の上を押しながら、ラッチ・ハンドルを反時計方向に回し続けます。システム・ボードが完全にはまると、シャシー上の位置合せマークが見えるようになります。

注意:

システム・ボードを取り付けるのに、マイクロプロセッサ、メモリー・モジュール、メモリー・ソケット、または他のシステム・ボード構成要素の上を押さないでください。

- 4 ラッチ・ハンドルを押し下げ、下側にあるタブをシャシー内の開口部へとかみ合わせます。これで、ラッチ・ハンドルはラッチがはまった位置に保持されます。



注: フルサイズのアダプターが取り付けられた状態では、システム・ボードとライザー・カードの接続部を見ることはできません。システム・ボードが完全にはまっているか確認するには、右側のレール上の位置合せマークが見えることが重要です。

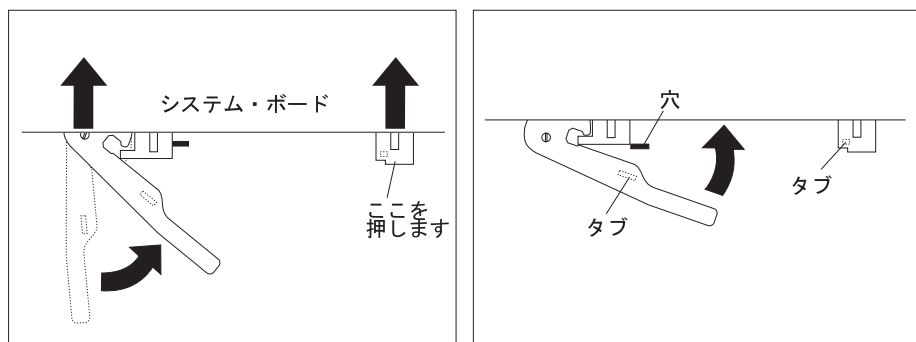
スタイル 2

- 1 システム・ボードのラッチ・ハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
- 2 システム・ボードのレールをシャシーのトラックに合わせます。レールをつかみ、ボードをライザー・カードのエッジ・コネクタから約 6 mm になるまで押し入れます。
- 3 システム・ボードがライザー・カードのエッジ・コネクタと正しく位置が合うまで、ラッチ・ハンドルを反時計方向に回します。右側のレールの端の上を押しながら、ラッチ・ハンドルを反時計方向に回し続けます。システム・ボードが完全にはまると、右側のレール上のタブがシャシー内の開口部とかみ合うようになります。

注意:

システム・ボードを取り付けるのに、マイクロプロセッサ、メモリー・モジュール、メモリー・ソケット、または他のシステム・ボード構成要素の上を押さないでください。

- 4 ラッチ・ハンドルを押し下げ、下側にあるタブをシャシー内の開口部へとかみ合わせます。これで、ラッチ・ハンドルはラッチがはまった位置に保持されます。

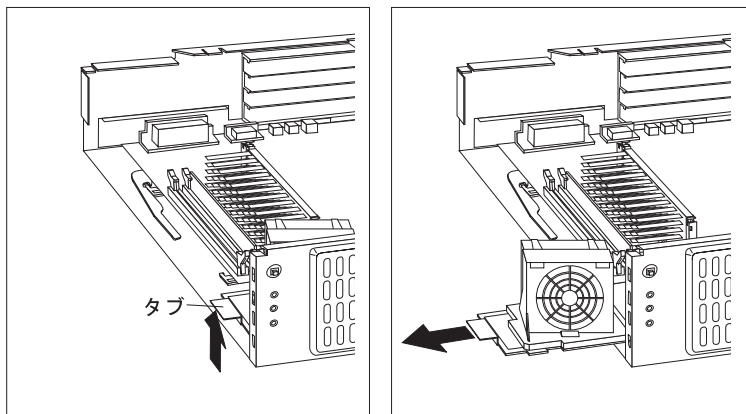


注: フルサイズのアダプターが取り付けられた状態では、システム・ボードとライザー・カードの接続部を見ることはできません。システム・ボードが完全にはまっているか確認するには、右側のレール上のタブがシャシー内の開口部とかみ合うことが重要です。

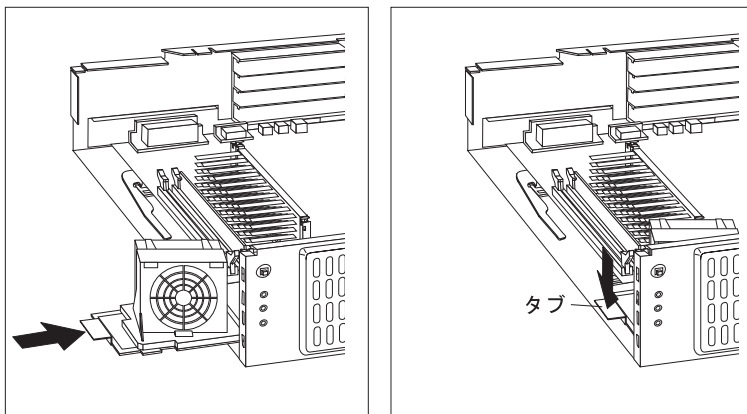
ファン・アセンブリーの取外しおよび再取付け

アダプターを取り付けるには、サイド・カバー、システム・ボードおよびファン・アセンブリーを取り外さなければならない場合もあります。

- 1 サイド・カバーを取り外します。(29ページの『サイド・カバーの取外し』を参照。)
- 2 ファン・アセンブリーの位置を確かめます(システム・ボードの右側)。マイクロプロセッサのタイプによっては、ファンを必要としないため、ファンがないものがあります。
- 3 ライザー・カード上のファン・コネクタからケーブルを抜きます。22ページの『アダプターおよびライザー・カード』を参照してファン・コネクタの位置を確かめてください。
- 4 コンピューターにファン・アセンブリーが取り付けられている場合は、シャーシ内でファン・アセンブリーの後端を保持しているタブを持ち上げます。
- 5 タブを持ち、引っ張ります。ファン・アセンブリーをシャーシから慎重に引き出し、側に置いておきます。ファンをアセンブリーから取り出す必要はありません。



- 6** フルサイズのアダプターの取付けまたは取外しを行った後は、以下の図に示すように、ファン・アセンブリーを元に戻します。ファン・アセンブリーが着座すると、タブは所定位置にきちんとはまります。ファン・コネクタをライザー・カードに再び差し込みます。



アダプターの取外し

作業を開始する前に

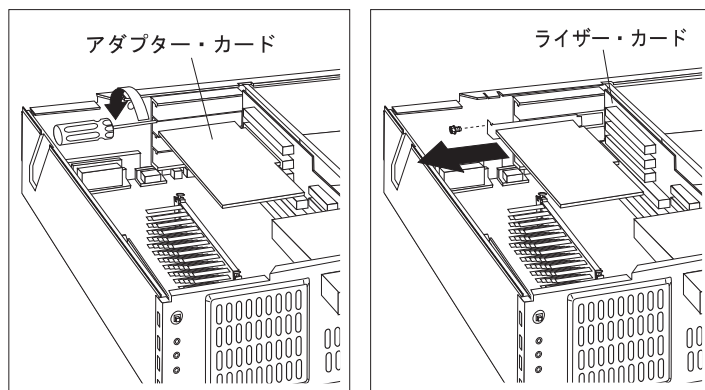
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

すべての外部ケーブルおよび電源コードを取り外し、コンピューターのカバーを取り外します(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

一部のアダプターの取外しにおいては、サイド・カバー、ファン・アセンブリー、およびシステム・ボードを取り外さなければならない場合もあります。

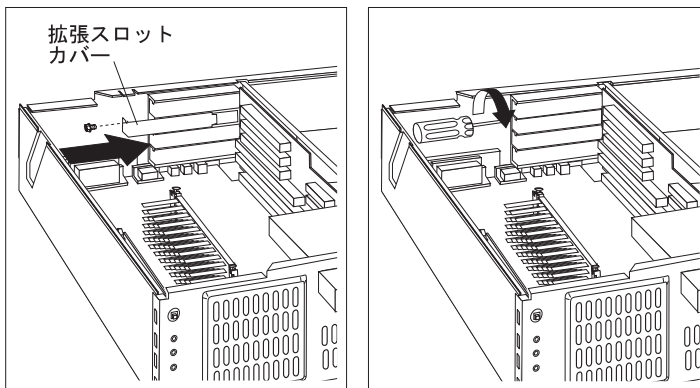
1 アダプターを確認して、ねじを取り外します。



2 アダプターを取り外して、静電気防止袋に入れます。

拡張スロットのねじに手が届かない場合には、コンピューターのサイド・カバーを取り外す必要があります。29ページの『サイド・カバーの取外し』を参照してください。

- 3** このスロットに別のアダプターを取り付ける必要がない場合には、拡張スロット・カバーを取り付けます。



- 4** ユーザーズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に進み、取り外したアダプターの名前を削除します。

注: アダプターを取り外すことによって、システム・リソースが解放されます。従来型 ISA アダプターを取り外す場合には、装置構成ユーティリティーを使用して、使用していたリソースを[使用可]に設定しなければなりません。詳細については、66ページの第7章、『取付けの完了』を参照してください。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。
取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

第5章 内蔵ドライブの取扱い

この章では、内蔵ドライブの取付けおよび取外しについて説明します。

重要情報

ドライブを取り付ける前に、コンピューター構成を一覧表示する ConfigSafe (または類似アプリケーション) を実行します。これによって、ドライブの取付け後に、コンピューター構成における変更点を表示、比較することができます。また、取付け後にドライブの構成に関する問題が生じた場合は、ConfigSafe によって構成を元の設定値に復元することができます。

ConfigSafe は本製品の初期導入済ソフトウェアの一つです。詳細については、本製品付属の初期導入済ソフトウェアについてを参照してください。

マイクロプロセッサの近くで作業を行うときは注意してください。通常の使用で、マイクロプロセッサは非常に高温となります。

内部ドライブを取り付けるときは、どんな種類のドライブを各ベイに取り付けることができるか、また各ドライブ・ベイの高さ制限に注意してください。また、内部ドライブ・ケーブルを、導入されるドライブに正しく接続してください。詳細については、49ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』および 57ページの『ベイ 4 内のドライブの取扱い』を参照してください。

内蔵ドライブは、コンピューターがデータの読取りや保管に使用する装置です。コンピューターにドライブを取り付けると、記憶容量を増やしたり、別のタイプの媒体を読み取ったりできるようになります。ユーザーのコンピューターで使用可能なドライブ・タイプの一部は以下のとおりです。

ディスクетト・ドライブ
ハード・ディスク・ドライブ
CD-ROM ドライブ

内蔵ドライブは、コンピューターの前面にあるベイに取り付けられます。これらのベイを、ベイ 1、ベイ 2、というように表記します。

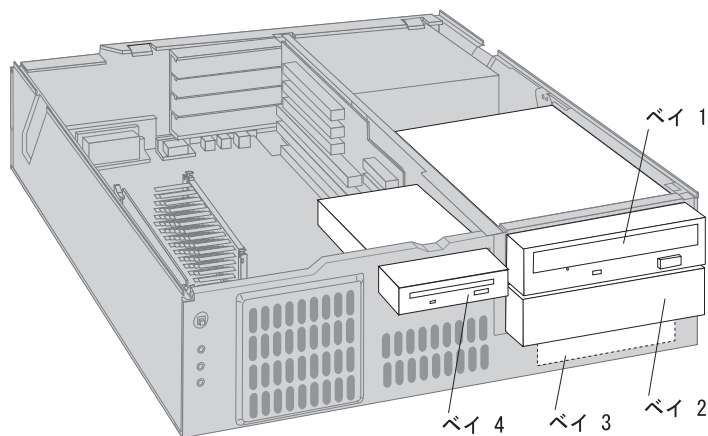
本製品には以下のドライブが標準装備されています。

ベイ 4 に 3.5 インチ・ディスク・ドライブ

ベイ 3 に 3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブ

CD-ROM ドライブが標準装備されているモデルでは、ベイ 1 に CD-ROM ドライブが取り付けられています。

以下の図は、コンピューター のドライブ・ベイの位置を示しています。



本製品にドライブを追加する場合は、ドライブ・ベイ変換キットを入手しなければならない場合もあります。3.5 インチ・ドライブを 5.25 インチ・ベイに取り付ける場合には、ドライブを保持するための変換キットを取り付けなければなりません。ハード・ディスクを接続するためのケーブルも必要となります。これらの部品については、お買い求めの販売店または弊社営業担当員に問い合わせてください。

ドライブ仕様

次の表には、各ベイに取り付けることができるドライブと、その高さが示されています。

ベイ	ドライブ	最大の高さ mm	最小の高さ mm
1	5.25 インチ CD-ROM テープ・バックアップ・ドライブ 3.5 インチまたは 5.25 インチ・ハード・ディスク	41.3	-
2	高さ 25.4mm の 3.5 インチまたは 5.25 インチの内蔵ドライブ	25.4	25.4
3	ハード・ディスク・ドライブ	25.4	25.4
4	3.5 インチ・ディスケット・ドライブ	25.4	-

注:

高さ 41.3 mm を超えるドライブは使用できません。

取外し可能な媒体 (ディスケット、テープ、または CD) を使用するドライブは、ベイ 1、2、または 4 のアクセス可能なベイに取り付けなければなりません。

PC 300GL にはディスケット・ドライブを 1 つだけ取り付けることができます。

3.5 インチ・ドライブをベイ 1 または 2 に正しく取りつけるには、5.25 インチ・ベイ用の 3.5 インチ変換キットを使用する必要があります。詳細については、お買い求めの販売店または弊社営業担当員に問い合わせてください。

電源および信号ケーブル

本製品の電源機構は、ライザー・カードおよび IDE ドライブに直接電源を供給します。ディスクセット・ドライブには、ライザー・カードを介して電源が供給されます。本製品では、以下のケーブルが使用されています。

4 芯 電源ケーブルは、電源機構からほとんどのドライブに、直接接続されます。これらのケーブルの終端は、プラスチックのコネクターになっています。これらのコネクターにはいくつかのサイズがあります。また、ライザー・カードに接続される電源ケーブルもあります。

信号ケーブルは、ライザー・カードから IDE ドライブに接続されます。信号ケーブルはリボン・ケーブルと呼ばれこともあります。本製品に付属の信号ケーブルは、2 種類あります。

- 幅の広い方の信号ケーブルは、内蔵ドライブと、ライザー・カードの裏面にある 1 次 IDE コネクターに接続されます。
- 幅の狭い方の信号ケーブルは、ディスクセット・ドライブと、ライザー・カード上のディスクセット・ドライブ・コネクターに接続します。

注: ライザー・カード上のコネクターの位置については、22ページの『アダプターおよびライザー・カード』を参照してください。

これから、電源および信号ケーブルを内蔵ドライブに接続する際の注意事項を説明します。

PC 300GL にはディスクセット・ドライブを 1 つだけ取り付けることができます。

本製品に標準装備のディスクセット・ドライブやハード・ディスク・ドライブなどの内蔵ドライブには、すでに電源ケーブルと信号ケーブルが接続されています。ドライブを交換する場合には、どのケーブルがどのドライブに接続されていたか、またコンピューター内をケーブルがどのように引き回されていたかを書き留めておいてください。

ドライブを取り付けたときには、必ず、信号ケーブルの終端のコネクターをドライブに接続してください。また、もう一方の端のコネクターは、ライザー・カードに接続してください。

1本のケーブル上に複数の IDE 装置を接続する場合には、1 つをマスター装置、それ以外をスレーブ装置として設定しなければなりません。そうしないと、IDE 装置のうちの一つかが、システムに認識されない場合があります。マスターまたはスレーブの指定は、各 IDE装置のスイッチまたはジャンパーの設定によって決まります。

3 つ以上のハード・ディスク・ドライブが取り付けられている時にパフォーマンスを最適化するには、必ずハード・ディスク・ドライブを高速データ転送（モード 1 以上）で 1 次 EIDE ケーブルに接続してください（ハード・ディスク・ドライブ 0 および 1）。

一部のモデルで 2 つ以上の IDE ハード・ディスク・ドライブを取り付けるためには、追加の信号ケーブルを購入する必要があります。次の仕様に合っているケーブルを使用してください。

- 最大長： 0.46 m
- ケーブル・サイズ： 28 AWG
- ケーブルの容量性負荷：最大 200 pF

ドライブ・ベイでの作業

本製品では、ベイ 3 および 4 にドライブが標準装備されています。モデルにより、ベイ 1 または 2 にドライブがすでに取り付けられていることもあります。ドライブがまだ取り付けられていないドライブ・ベイは、メタル・シールドがコンピューター・フレームに取り付けられており、またベイ・パネルがコンピューター本体のカバーに取り付けられています。ドライブを取り付ける前に、メタル・シールドを取り除く必要があります。ハード・ディスクを取り付ける場合を除き、ベイ・パネルも取り外す必要があります。ベイ 1、2、または 3 にドライブを取り付けまたは取り外しを行うためには、ドライブ・ケージを回転させる必要があります。

作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うオプションに付属の説明書をお読みください。

コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

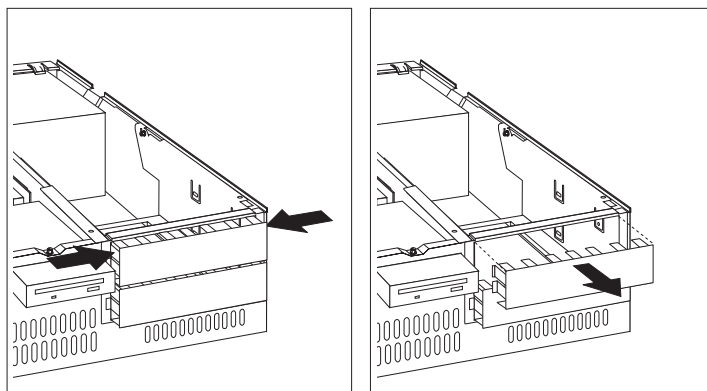
コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

金属シールドの取外し

注: ご使用の製品には金属シールドが装備されていない場合もあります。

- 1 コンピューターの前面を手前に向けます。
- 2 金属シールドの側面のタブを、ラッチがはずれるまで押します。
- 3 片側を手前にずらしてはずし、次に反対側をはずします。

注: ベイ 2 をカバーしているシールドを取り扱うためには、ベイ 1 からシールドを取り外さなければならない場合もあります。

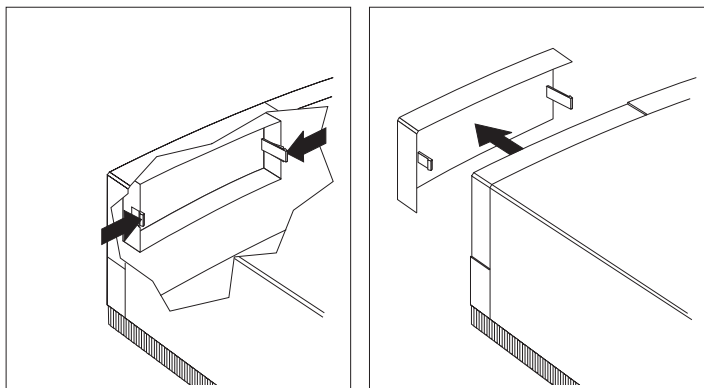


次の手順

ベイ・パネルを取り外すには、47ページの『ベイ・パネルの取外し』に進みます。
ドライブ・ケージを回転させて持ち上げ、それを電源機構上に載せておくには、49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』に進みます。
ドライブを取り付けるには、51ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。
ドライブを取り外すには、54ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。

ベイ・パネルの取外し

- 1 コンピューター・カバー上の該当するベイ・パネルを確認します。
- 2 カバーを取り外し (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』参照)、ベイ・パネルの裏側を調べます。
- 3 ドライバーの先を (必要に応じて) 使用して、ベイ・パネルをカバー内に保持しているプラスチック・タブを曲げます。
CD-ROM ドライブをベイ 1 に取り付ける場合は、最初に外側エッジに最も近いタブを解放する必要があります。
- 4 ベイ・パネルを少し曲げ、両方のタブを解放します。
- 5 ベイ・パネルを取り外します。以下の図は、ベイ 1 からベイ・パネルを取外す場合を示しています。



- 6 取り外されたベイ・パネルは、将来使用するときのために保管しておきます。
- 7 必要に応じて、ステップ 1~3 を繰り返して他のベイ・パネルを取り外します。

次の手順

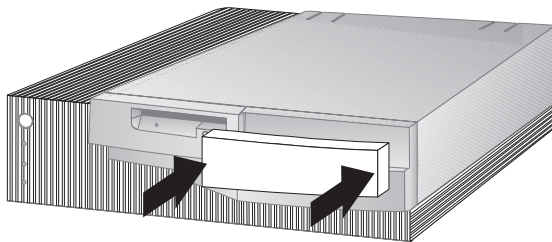
ベイをカバーしているメタル・シールドを取り外します。
ドライブを取り外すには、54ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。
ドライブ・ケージを取り付けるには、56ページの『ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す』に進みます。

ベイ・パネルの取付け

ベイ 1 および 2 のベイ・パネルは、外側からコンピューター・カバーに取り付けられます。(ベイ・パネルを取り付ける際にカバーを外す必要はありません。) CD-ROM ドライブが標準装備の場合、ベイ 1 のベイ・パネルはありません。

ベイ・パネルは、コンピューター・カバーの外側から所定位置にはまります。

- 1** ベイ・パネルをコンピューター・カバーの開口部と位置合せします。
- 2** ベイ・パネルをタブが所定位置に固定される音がするまで押し込んで取り付けます。下図は、ベイ・パネルをベイ 1 に取り付ける場合の図を示しています。



- 3** 必要に応じ、ステップ 1 および 2 を繰り返して他のベイ・パネルを取り付けます。

次の手順

ドライブを取り付けるには、51ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブを取り付けてある場合には、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い

ベイ 1、2、または 3 にドライブを取り付けまたは取り外しを行うためには、電源機構の上にドライブ・ケージを持ち上げる必要があります。コンピューターに向かって、ドライブ・ケージは正面右手前にあります。

作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

取付けまたは交換を行うドライブに付属の説明書をお読みください。

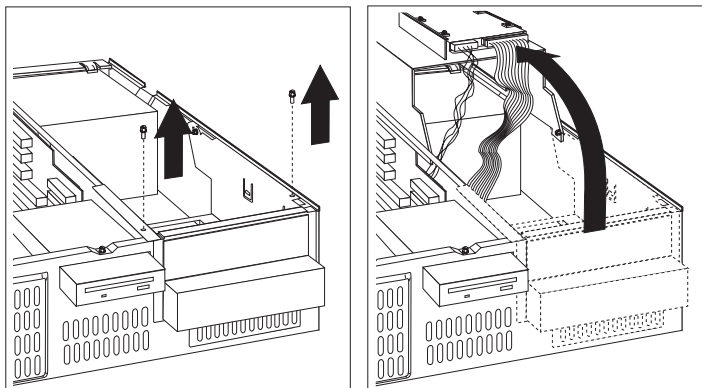
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

ドライブ・ケージを回転させる

コンピューター内のドライブ・ケージを電源機構の上に持ち上げるには以下のようにします。

- 1** ドライブ・ケージをコンピューターのフレームに取り付けている2本のねじを外します。
- 2** ケージをコンピューター内から電源機構上部に向かって慎重に回転させます。ケージはコンピューター・フレームの上部に乗るまで回転します。



3 ケーブルは接続されたままにしておきます。

— 次の手順 —

ドライブを取り付けるには、51ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブを取り外すには、54ページの『ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し』に進みます。

ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け

作業を開始する前に

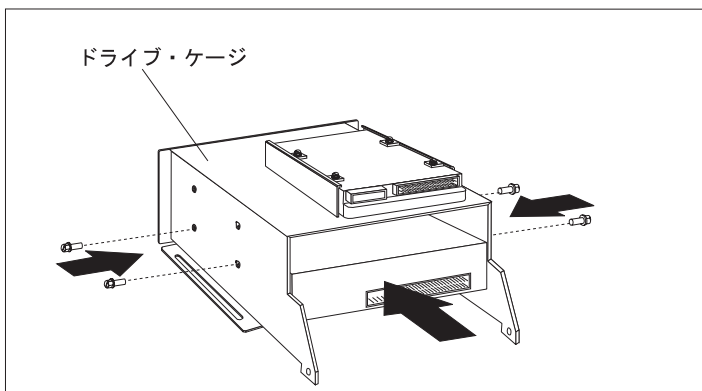
49ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』をお読みください。
49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』をお読みください。
ドライブに付属の資料をお読みください。

注:

3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 1 または 2 に取り付けるためには、変換キットを取り付ける必要があります。(詳細については、お買い求めの販売店または弊社営業担当員に問い合わせてください。)ハード・ディスクに接続するためのケーブルも必要となります。

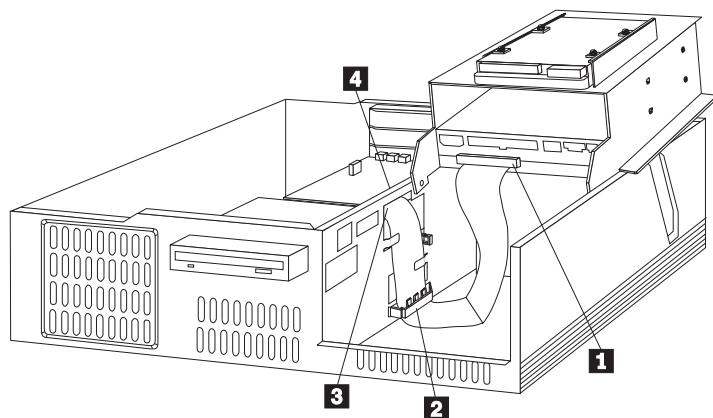
ドライブを取り付けるベイをカバーしているメタル・シールドを取り外します。45ページの『ドライブ・ベイでの作業』を参照してください。

- 1 新しいドライブが入っている静電気防止袋を、塗装されていない金属面に接触させてから、ドライブを取り出します。
- 2 ドライブを希望する空のドライブ・ベイに挿入します。ケージは上下が逆さまです。したがってドライブも上下逆に入れる必要があります。次にねじを挿入して固く締め、所定位置に固定します。下図は、ベイ 1 に取り付けしたドライブを示しています。



- 3 必要に応じ、ステップ 1 および 2 を繰り返して他のドライブを取り付けます。

- 4** コンピューター内部の信号ケーブルを引き回します。以下の図は、ベイ 1 に取り付けられたドライブからライザー・カード上の 2 次 IDE コネクタに引き回されたケーブルを示しています。



- 1 信号ケーブルはここでドライブと接続されます。
- 2 信号ケーブルをプラスチック・クランプを通して引き回します。このクランプの使用に関する詳細説明は、53 ページに示されています。
- 3 信号ケーブルをドライブ・ブラケットの周囲に引き回します。
- 4 信号ケーブルを IDE コネクタに接続します。

注:

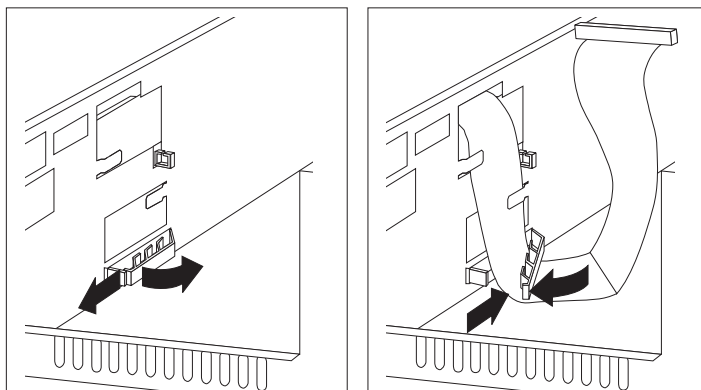
- a. 前述の各ステップは、ドライブ・ケージ内のドライブからライザー・カードの反対側にあるコネクタに引き回されるすべての信号ケーブルについて実施してください。

ドライブをライザー・カード上の 1 次 IDE コネクタ(ドライブ・ケージと同じ側)に接続する場合も、信号ケーブルをプラスチック・クランプを通して引き回し、その後 1 次 IDE コネクタに接続してください。

ライザー・カード上のコネクタの位置に関しては、22 ページの『アダプターおよびライザー・カード』の図を参照してください。

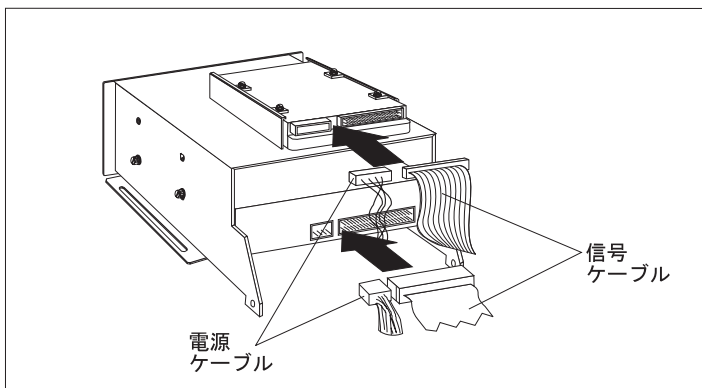
- b. CD-ROM ドライブを追加する場合で、それをオーディオ・アダプターに接続したい場合は、28 ページの『アダプターからベイ 1, 2, または 3 のドライブへのケーブルの引き回し』を参照してください。本セクションは、ケーブルをオーディオ・アダプターからベイ 1, 2, または 3 に取り付けられたドライブへ引き回す場合について説明します。

以下の図は、信号ケーブルを固定するためのクランプの開き方、および閉じ方を示しています。



5 すべてのケーブルをドライブに接続します。

注: 2つ以上のドライブが取り付けられる場合は、最初に一番下のドライブにケーブルを接続し、順番に上へと処理をしていきます。



次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、変更されたドライブを記録します。

ドライブ・ケージを回転させて戻します。詳細は56ページの『ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す』を参照してください。

ベイ 1、2、または 3 からのドライブの取外し

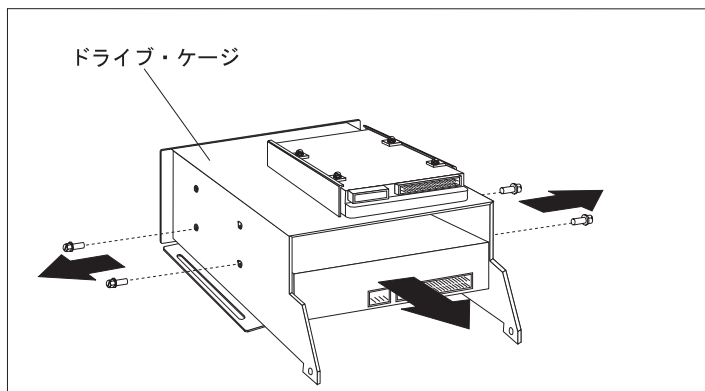
作業を開始する前に

49ページの『ベイ 1、2、および 3 のドライブの取扱い』をお読みください。

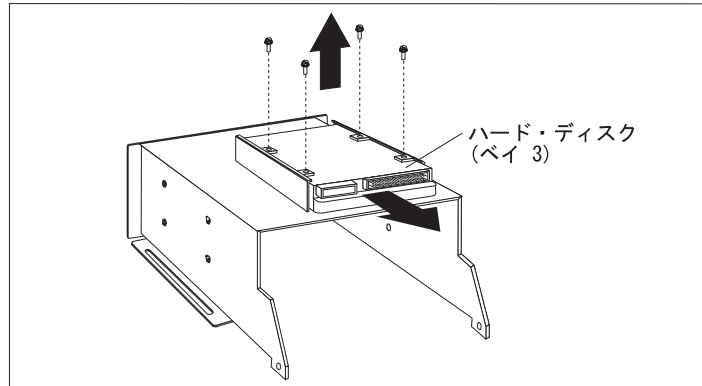
49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』をお読みください。

ドライブ・ケージをコンピューター・フレームから回転させた後は、

- 1 取り外そうとするドライブからのケーブルを外します。
- 2 ドライブをドライブ・ケージに固定しているねじを緩めて取り外し、ドライブをベイから引き出します。
 - a. 以下の図は、5.25 インチ・ドライブ (CD-ROM) のベイ 1 からの取外しを示しています。



- b. 3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブをベイ 3 から取り外すには、ドライブの下部からねじを外し、次にドライブをベイから引き出す必要があります。以下の図は、ドライブおよびドライブ・ケージからのねじの取外しを示しています。



3 取り外したドライブを静電気防止袋に入れます。

次の手順

ドライブ・ベイを空のままにしておく場合、または取り外したドライブを取外し可能媒体を持たないドライブに取り替える場合には、ベイ・パネルおよび金属シールドを取り付けます。詳細については 48ページの『ベイ・パネルの取付け』を参照してください。

ドライブを取り付けるには、51ページの『ベイ 1、2、または 3 へのドライブの取付け』に進みます。

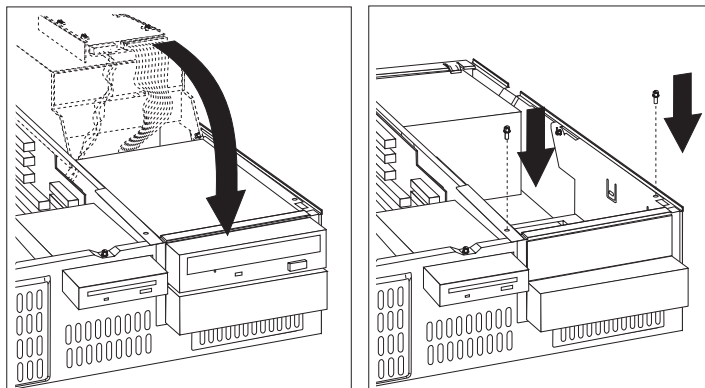
ドライブ・ケージを回転して固定位置に戻す

作業を開始する前に

すべてのケーブルがコンピューター内部で正しく引き回されていることを確認します。信号ケーブルからドライブの引き回しについては、52 ページのステップ 4 (52 ページ) を参照してください。

すべてのケーブルがドライブ・ケージ内のドライブに正しく接続された確認します。

- 1 ドライブの電源および信号ケーブルを電源機構側に押し出します。
- 2 ドライブ・ケージをコンピューターの前方に慎重に回転させます。
- 3 ドライブ・ケージおよびコンピューター・フレームの上部にねじを挿入し、固く締めます。



次の手順

ベイ 4 のドライブの取扱いについては、59ページの『ベイ 4 へのドライブの取付け』または57ページの『ベイ 4 からのドライブの取外し』を参照してください。取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

ベイ 4 内のドライブの取扱い

本セクションはベイ 4 でのドライブの取外しと取付けについて説明します。通常ディスクレット・ドライブはベイ 4 に取り付けられます。

ベイ 4 からのドライブの取外し

取外し可能媒体を持つドライブをベイから取り外し、すぐに新しいドライブを取り付ける予定がない場合には、ベイ・パネルとメタル・シールドを再び取り付けておきます。

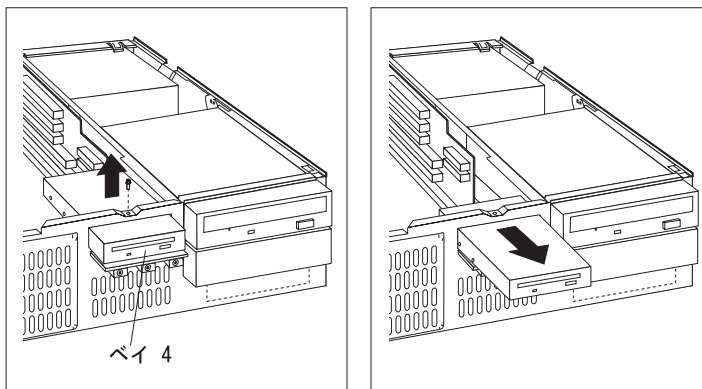
作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および 4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

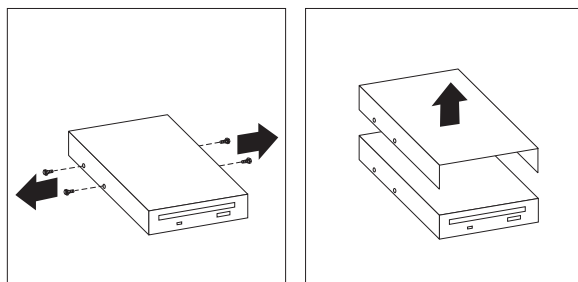
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください (5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 ディスケット・ドライブ取付け金具の上部のねじを緩めて外し、電源ケーブルと信号ケーブルを外します。
- 2 ドライブおよび取付け金具をコンピューターから前方に引き出します。



- 3** コンピューターから取り出した後、ディスク・ドライブ取付け金具の側面のねじを緩めて外し、ドライブと取り付け金具を分離します。



- 4** 取り外したドライブを、静電気防止袋に入れます。

— 次の手順 —

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取外しについて記録してください。

金属シールドを未使用ベイに再び取り付けるには、46ページの『金属シールドの取外し』に進みます。

ベイ・パネルを未使用ベイに再び取り付けるには、48ページの『ベイ・パネルの取付け』に進みます。

ドライブを取り付けるには、59ページの『ベイ 4 へのドライブの取付け』に進みます。

ドライブと取付け金具を組み立てたものを取り付け、作業を完成させるには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

ベイ 4 へのドライブの取付け

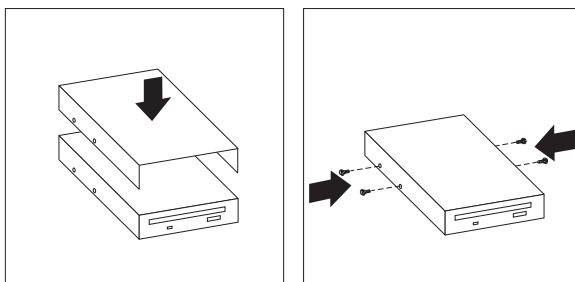
作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

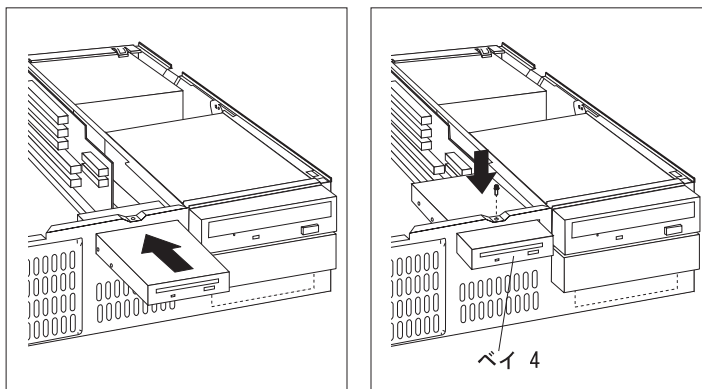
コンピューターおよび接続されている他のすべての装置の電源をオフにしてください。

コンピューターに接続されているケーブルをすべて取り外して、コンピューターのカバーを開けてください(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

- 1 コンピューター本体の外側で作業を行います。ドライブをディスク・ドライブ取付け金具内に挿入し、次に側面のねじを挿入して固く締めます。



- 2 ディスク・ドライブ取付け金具をコンピューターに挿入し、上部ねじを締めます。



- 3** 電源ケーブルと信号ケーブルを接続します。ライザー・カード上のコネクターの位置に関しては、22ページの『アダプターおよびライザー・カード』の図を参照してください。

次の手順

ユーザズ・ガイドの「装置に関する記録用紙」に、この取付けについて記録してください。

ベイ 1, 2, または 3 にドライブを追加するには、49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』および 51ページの『ベイ 1, 2, または 3 へのドライブの取付け』を参照してください。

ベイ 1, 2, または 3 からドライブを取り外すには、49ページの『ドライブ・ケージを回転させる』および 54ページの『ベイ 1, 2, または 3 からのドライブの取外し』を参照してください。

取付けを完了するには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。

第6章 機密保護オプションの取扱い

この章では、コンピューターで使用可能な機密保護オプションのいくつかについて説明します。

分からなくなったパスワードを消去するには、システム・ボード上のCMOS クリアー (パスワード) ジャンパーを移動します。

注: パスワードの設定、変更、削除には、装置構成ユーティリティーを使用します。詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

わからなくなったパスワードの消去

注: パスワードを設定するときは 75 ページの『パスワードの設定』を参照してください。パスワードの変更または削除を行うときは、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

コンピューターは、システム・ボード上の CMOS メモリーを、装置構成情報の保管に使用しています。CMOS メモリーは、以下に関する情報を保持します。

- 日付と時刻
- 機密保護機能
- 電源管理装置
- 記憶装置
- キーボードとマウス
- 従来型 ISA 構成情報
- プラグ・アンド・プレイ構成情報
- ポートの割当て
- I/O アドレスと割込み
- その他の選択可能な機能

機密保護機能には、始動パスワードと管理者パスワードの設定が含まれています。わからなくなったパスワードを消去する必要がある場合は、CMOS メモリー用に指定されたジャンパーを移動する必要があります。

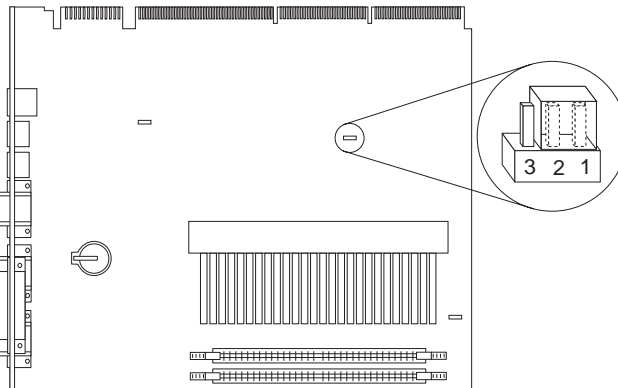
重要

CMOS メモリーをクリアすると、コンピューターの構成はデフォルト設定値となります。CMOS メモリーをクリアした後でコンピューターを再構成する必要があるため、CMOS クリア・ジャンパーを移動する前に、コンピューターの構成情報を記録しておいてください。

作業を開始する前に

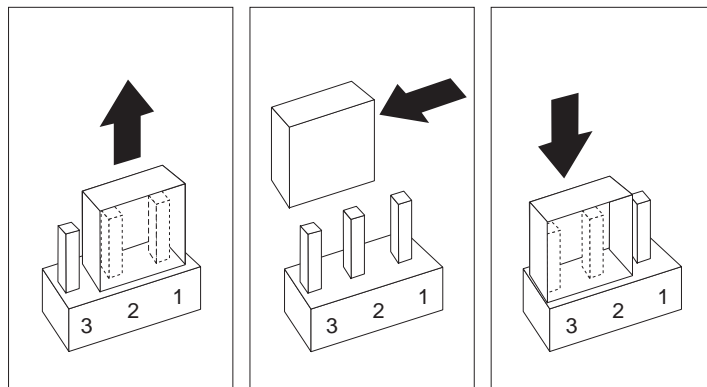
装置構成ユーティリティを使用して、すべての構成情報を記録してください。
vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。
コンピューターの電源をオフにし、電源コードをシャーシの背面から外します。その他のケーブルは接続したままにしておきます。
コンピューター・カバーを取り外します(5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』参照)。

ジャンパーはシステム・ボード上にあります(以下の図に示されています)。ジャンパーにはJ6C1とラベルが付けられています。

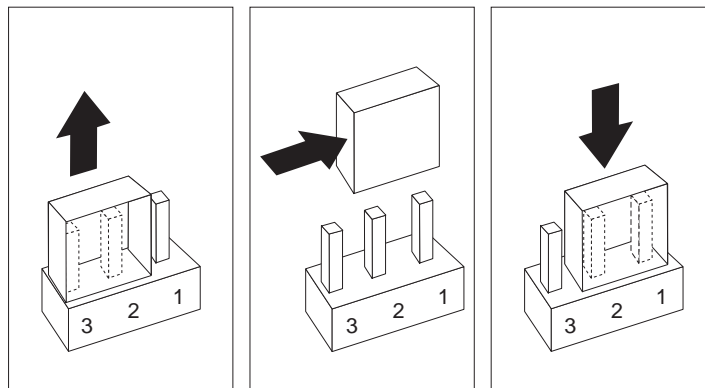


注: コンピューター・カバーの裏側にあるラベルも、このジャンパーおよびその他のコンピューター構成要素の位置を示しています。

- 1 ジャンパーを通常のピンの位置 (ピン1 および 2) からピン 2 および 3に動かします。ジャンパーを動かすには先端のとがったペンチを使用すると便利ですが、システム・ボード構成部品をこすったり、ジャンパーをつぶさないように注意してください。



- 2 電源コードを再接続し、コンピューターの電源を再びオンにします。これで CMOS メモリーはクリアされ、パスワードは消去されました。POST の完了後、構成エラー・メッセージが表示されます。
- 3 画面の指示に従います。
- 4 装置構成ユーティリティが開始されたら、必要な変更を行い、設定値を保管し、セットアップを終了します。69ページの『装置構成の更新』を参照してください。ジャンパーを通常位置に移動するよう指示するメッセージが表示されたら、電源をオフにします。
- 5 電源コードをシャーシの背部から外します。
- 6 ジャンパーを通常位置に戻します (ピン1 および 2)。



— 次の手順 —

コンピューターを組み立て直して (66ページの第7章、『取付けの完了』に進む) から、装置構成ユーティリティーを使用して、パスワードまたその他の構成パラメーターを設定します。詳細については、75ページの『パスワードの設定』および *ユーザズ・ガイド* を参照してください。

第7章 取付けの完了

オプションを取り付けた後、取り外した部品の取付け、カバーの再取付け、ならびに電源コードや電話線を含むケーブルの再接続を行う必要があります。また、取り付けられたオプションによっては、装置構成ユーティリティーの情報を更新しなければならない場合もあります。

上記の手順の早見表として、次のリストを示します。

67ページの『カバーの再取付けとケーブルの接続』

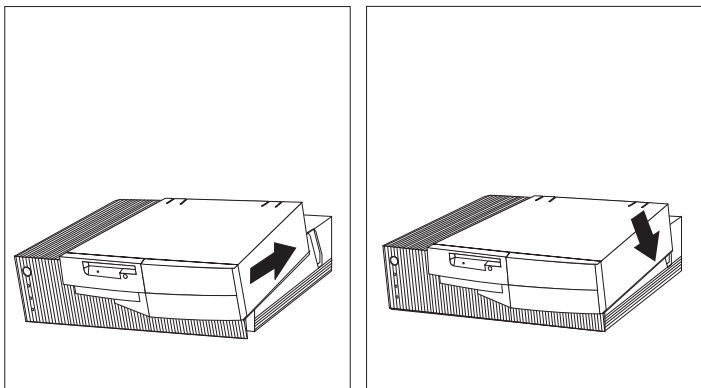
69ページの『装置構成の更新』

カバーの再取付けとケーブルの接続

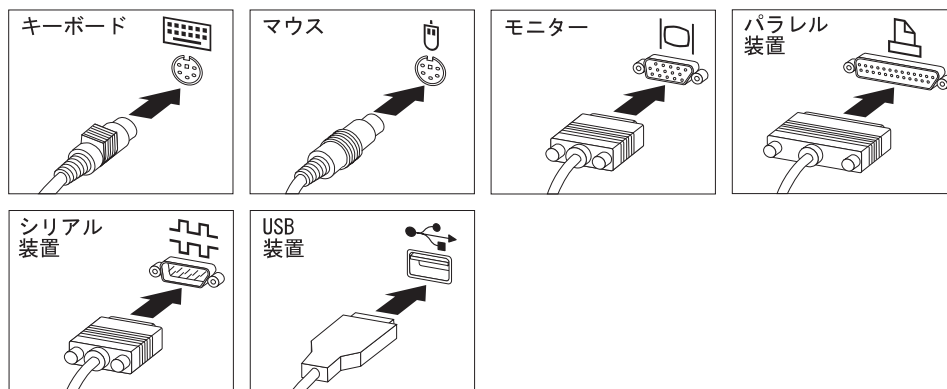
作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

- 1** すべての構成部品が正しく組み立て直されており、コンピューターの内側にツールやねじが残っていないか確認してください。
- 2** カバーの再取付けの邪魔になるケーブルをどけてください。
- 3** 上部カバーの片側に手を置き、前端をコンピューター前部のテーブルにセットし、後端をコンピューターの上にかぶせます。カバーを、コンピューターの後部に向かって押し、カバーの後部を落としこみます。



4 外部ケーブルとコードをコンピューターに再接続してください。



5 本製品にモデムやファクス機器を接続している場合は、壁のモジュラー・ジャックと本体に電話線を接続し直します。電源コードを電源コンセントに差し込みます。

6 コンピューター構成を更新します。69ページの『装置構成の更新』を参照してください。

装置構成の更新

重要

本節の構成情報は、オプションの取付けに適用されます。装置構成ユーティリティーの使用法の詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

また、構成設定を更新した後でデバイス・ドライバーを導入しなければならない場合があります。詳細についてはオプションに付属の説明書を参照し、デバイス・ドライバーが必要かどうかや、その導入方法を判別してください。また、標準装備のビデオ・コントローラーのデバイス・ドライバーはサポート CD にあります。

オプションの追加、除去、または交換の後、構成設定を更新しなければなりません。この構成はコンピューターで自動的に実行することもできますが、*手動でも実行できます*。本製品がオプションを自動的に構成する場合は、システム・プログラムを使用します。システム・プログラムが設定を更新しない場合には、装置構成ユーティリティーを使用して、適切な設定を再構成することができます。

たとえば、内蔵ハード・ディスク・ドライブを増設した後でコンピューターを始動すると、ほとんどの場合設定は自動的に更新されるので、装置構成ユーティリティーを使用してそれらの変更内容を保管してください。ただし、従来型 ISA アダプターの取付けまたは取外し後に、リソースの競合が発生した場合は、コンピューター構成を手動で更新し、その情報を保管する必要があります。

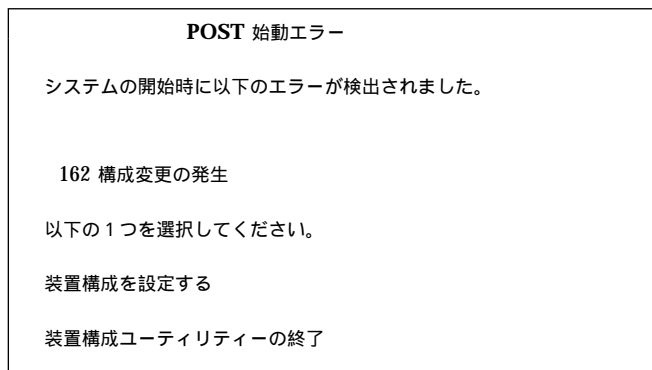
注:

1. 変更を行う前に、必ずカスタマイズされたすべての設定値を記録します。
2. リソースの競合によるエラー・メッセージの詳細については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

装置構成ユーティリティーの開始

オプションを増設したり取り外した後で初めてコンピューターを再始動させると、ほとんどのオプションに関して構成変更が発生したことを知らせるメッセージが表示されます。次に、構成設定を手動で更新するか、あるいはシステム・プログラムによって自動的に更新された設定を確認して保管するか、装置構成ユーティリティーに入力するよう求めるプロンプトが表示されます。

オプションを変更してコンピューターを再始動すると、次の画面が表示されます。



注: 発生した構成変更によっては、ここに示されているのとは別のエラー・メッセージが表示される場合があります。

上記画面が表示された場合は、装置構成ユーティリティー・メニューが表示されるまで装置構成を設定するを選択します。

上記画面が表示されない場合は、以下の手順に従って、装置構成ユーティリティー・メニューに進みます。

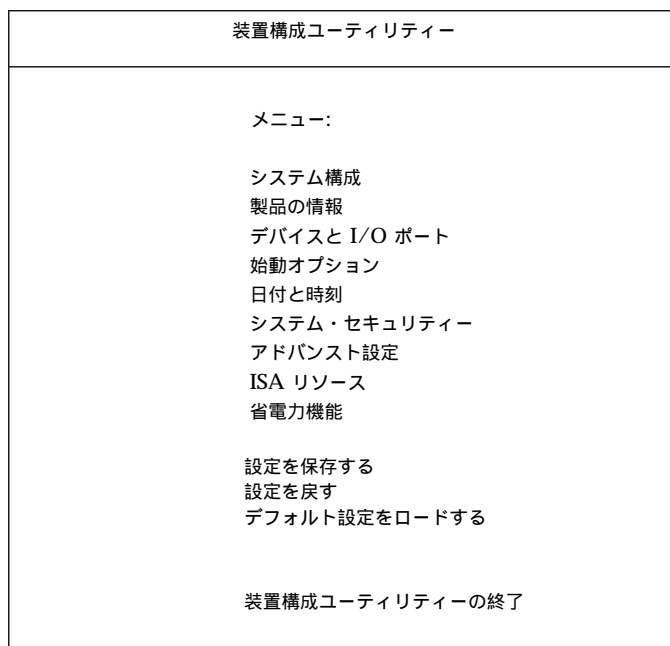
装置構成ユーティリティにアクセスする場合：

1 コンピューターの電源をオンにします。

コンピューターの電源がすでにオンになっている場合には、オペレーティング・システムを遮断して本体の電源をオフにし、2、3 秒待ってから、再始動してください。本体を再始動するのに、**Ctrl+Alt+Del** を使用しないでください。

2 画面の下端左隅に装置構成ユーティリティのプロンプトが表示されているときに、**F1** を押します。

- a. 管理者パスワードを設定していない場合には、装置構成ユーティリティ・メニューが現れます。管理者パスワードを設定してある場合には、その管理者パスワードを入力して、**Enter** を押してください。
- b. 管理者パスワードと始動パスワードの両方を設定している場合には、パスワード・プロンプトに対してどちらのパスワードを入力しても構いません。ただし、始動パスワードを入力した場合、装置構成ユーティリティの限定された情報を表示することはできませんが、設定を変更することはできません。装置構成ユーティリティの設定を変更するためには、パスワード・プロンプトに管理者パスワードを入力してください。



注: コンピューターの画面に表示されるメニューは、ここに示されているのと多少異なっている場合がありますが、機能は同じです。

設定の変更と終了

装置構成ユーティリティー・メニューで、変更内容を表示して保管することにより、その変更内容をそのまま保管することもできますが、手動によって変更を行い、その設定を保管することもできます。

装置構成ユーティリティー内の記号を識別するための早見表を以下に示します。キーの機能については、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。

メニュー項目の横に中黒 () が表示されている場合は、追加メニューが使用可能です。

大かっこ ([]) で囲まれているほとんどの情報が変更可能です。[] で囲まれている情報は変更できません。

メニュー項目の横に右向き矢印 () が付いている場合は、そのカテゴリで構成変更があったことを表しています。は、後続のメニューに表示されることもあります。

アスタリスク (*) がメニュー項目の横に表示されている場合は、リソースの競合が検出されています。

変更あるいは情報の表示が済んだら、装置構成ユーティリティー・メニューに戻り、設定を保存するを選択して、変更内容を保管してください。この位置で、装置構成ユーティリティーを終了することができます。

装置構成ユーティリティーを終了するためには、次の手順に従ってください。

- 1 装置構成ユーティリティー・メニューから、**Esc** キーを押します。
- 2 「セットアップの終了」メニューが表示されます。変更内容を保管することもできますが、変更内容を保管せずに装置構成ユーティリティーを終了することもできます。あるいは、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ることもできます。矢印キーを使用して望みのオプションを選択し、**Enter** キーを押します。

従来型 ISA アダプターの構成

従来型 ISA アダプターを構成するためには、アダプターのスイッチまたはジャンパーの設定値を変更しなければならない場合があります。競合が存在する場合は、装置構成ユーティリティーを使用してメモリー位置、入出力割当て、DMA および割込み指定といった従来型 ISA リソース情報の設定も必要です。

注: 必要なリソースおよびスイッチ設定の詳細については、アダプターに付属の資料を参照してください。従来型リソース設定は、アダプターを装着する前に行ってください。

取り付けられているアダプターに合った従来型リソース情報を設定するためには、次のように行います。

- 1 装置構成ユーティリティーを開始します (70ページの『装置構成ユーティリティーの開始』を参照)。
- 2 「装置構成ユーティリティー」メニューから「ISA リソース」を選択します。
- 3 必要に応じて、「メモリー・リソース、I/O ポート・リソース、DMA リソース」または「割込みリソース」を選択します。
- 4 該当するリソースを「ISA で使用中」に設定します。
- 5 **Esc** を押して、メインメニューに戻ります。
- 6 設定保管 を選択し、**Enter** を押します。

従来型 ISA アダプターを取り外した場合は、使用されなくなったシステム・リソースを「使用可」にリセットしなければなりません。これを行うには、上記の手順に従い、ステップ 4 で「使用可」を選択します。

注: アダプターおよび競合の解決の詳細については、23ページの『アダプター構成』および 80ページの付録B、『割込みリソースと DMA リソース』を参照してください。

始動装置の構成

始動装置は、コンピューターの電源がオンになったときに、コンピューターが始動するためのオペレーティング・システムを探す装置です。コンピューターに新しい装置を追加した後、始動装置の順序を変更することもできます。装置構成ユーティリティーを使用して始動装置を構成することができます。

始動装置は以下のようにして構成します。

- 1** 装置構成ユーティリティーを開始します (70ページの『装置構成ユーティリティーの開始』を参照)。
- 2** 装置構成ユーティリティーメニューから「始動オプション」を選択します。
- 3** 「最初の始動装置」を選択します。
- 4** 矢印キーで選択を行います。
- 5** 必要に応じて、「**2**番目の始動装置」、「**3**番目の始動装置」および**4**番目の始動装置」について上記各ステップを繰り返します。
- 6** 装置構成ユーティリティーを終了するときには、変更内容を必ず保管してください。
- 7** **Esc** を押して、メインメニューに戻ります。
- 8** 設定保管 を選択し、**Enter** を押します。

パスワードの設定

CMOS クリアー・ジャンパーを使用して コンピューター 構成およびセットアップ情報の消去を行った場合には、コンピューター を再構成し、日付と時間を設定し、そして電源オンまたは管理者パスワードをリセットする必要があります。

注: パスワード保護ならびに日付と時間の設定に関する詳細については、*ユーザーズ・ガイド* を参照してください。

電源オンまたは管理者パスワードのリセットは以下のように行います。

- 1** 装置構成ユーティリティーを開始します (70ページの『装置構成ユーティリティーの開始』を参照)。
- 2** 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティ」を選択します。
- 3** 「管理者パスワード」または「始動パスワード」を選択します。
- 4** 指示に従ってパスワードを変更します。詳細については、*ユーザーズ・ガイド* のパスワード・セクションを参照してください。
- 5** **Esc** を押して、メインメニューに戻ります。
- 6** 設定保管 を選択し、**Enter** を押します。

注: CMOS メモリーのクリアーに関しては、62ページの『わからなくなったパスワードの消去』を参照してください。

マイクロプロセッサ速度の設定

マイクロプロセッサを異なる速度のものと交換する場合は、装置構成ユーティリティを使用してマイクロプロセッサの速度設定値を変更する必要があります。マイクロプロセッサの設計値より高速を選択しないでください。不測の事態またはハードウェア損傷が生じる可能性があります。

マイクロプロセッサ速度の詳細については、*ユーザズ・ガイド* を参照してください。

マイクロプロセッサ速度は以下のようにして設定します。

- 1** 装置構成ユーティリティを開始します (70ページの『装置構成ユーティリティの開始』を参照)。
- 2** 装置構成ユーティリティ メニューから **アドバンスド設定** を選択します。
- 3** 提供された選択肢から正しいマイクロプロセッサ速度にします。
- 4** **Esc** を押して、メインメニューに戻ります。
- 5** **設定保管** を選択し、**Enter** を押します。

付録A. 電池の交換

この付録には、コンピューターの電池の取扱いと交換に関する情報が記載されています。システム・ボードのソケットに取り付けられているリチウム電池は、リアル・タイム・クロックおよび CMOS メモリーに電力を供給しています。電池が消耗し始めると、電圧が下がります。電圧が一定値以下に下がると、CMOS メモリーに格納されているシステム設定値 (たとえば、日付や時刻など) に誤りが生じる場合があります。電池に不具合が生じる場合は、同等な電池と交換してください。

⚠ 危険

交換用電池に取り扱い上の注意や取り付けの指示が書かれてあれば、それに従う。

電池を正しく交換しないと、破壊する危険があります。

電池にはリチウムが含まれており、正しい方法で使用、取り扱い、または廃棄しないと発熱、発火、破裂のおそれがあります。

電池の交換には、IBM部品番号33F8354の電池、またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。次の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100 以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。

電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店および弊社の営業担当員までお問い合わせください。

本体、プリンターなどの装置の電源を切る。

電源コードおよび外部ケーブルをすべて切り離してから、コンピューター・カバーを取り外す (詳細は、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照)。

作業を開始する前に

vページの『安全に正しくお使いいただくために』および4ページの『静電気の影響を受けやすい装置の取り扱い』をお読みください。

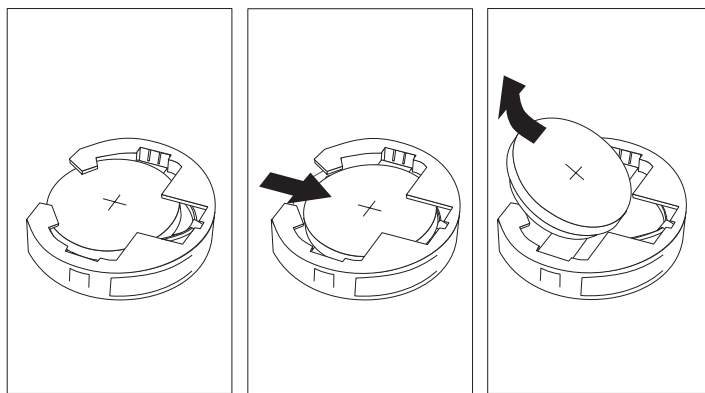
交換用電池に付属の資料をお読みください。

本体およびすべての接続されている装置の電源をオフにしてください。

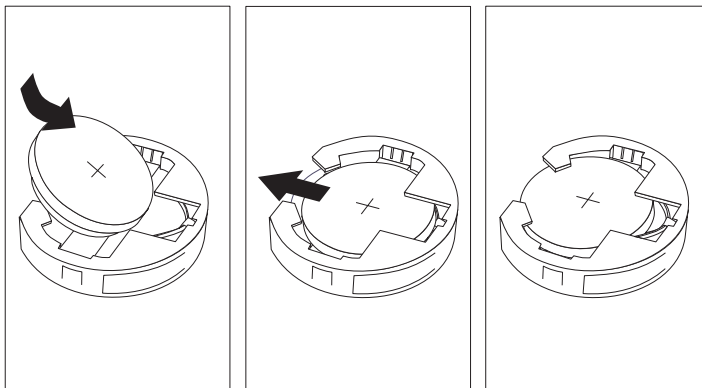
コンピューターに接続されているすべての外部ケーブルを取り外し、コンピューターカバーを取り外してください（補足情報については、5ページの『ケーブルの取外しとカバーの取外し』を参照してください）。

電池の場所については、10ページの『システム・ボード上のパーツの識別』を参照してください。

- 1 必要に応じて、電池を扱うのに邪魔になるアダプターまたはケーブルがあれば取り外します。手順については、38ページの『アダプターの取外し』を参照してください。
- 2 vページの『安全に正しくお使いいただくために』に目を通します。
- 3 古いバッテリーを取り外します。



4 新しいバッテリーを入れます。



注: 電池の交換後本体の電源を初めてオンにしたときは、エラー・メッセージが表示される場合があります。これは正常です。

次の手順

別のオプションの作業を行う場合は、該当する項に進みます。
交換を完了するためには、66ページの第7章、『取付けの完了』に進みます。
装置構成ユーティリティを使用して、日付と時刻ならびにパスワードを設定します。日付と時刻の設定に関しては、*ユーザズ・ガイド*を参照してください。パスワードの設定に関しては、75ページの『パスワードの設定』を参照してください。
古い電池を、地域の条例や規制に準じて廃棄します。

付録B. 割り込みリソースと DMA リソース

この付録には、本製品の省略時の割り込みリソースおよびダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースをリストしています。

注: 割り込みおよび DMA の設定値は、構成制御のもとで変更することができます。

割り込み要求	システム・リソース
0	タイマー
1	キーボード
2	インタラプト・コントローラー (カスケード接続)
3 ³	シリアル・ポート B
4 ³	シリアル・ポート A
5	使用可
6	ディスク
7 ³	パラレル・ポート
8	リアルタイム・クロック
9	ACPI
10	使用可
11	使用可
12 ³	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	取り付けられている場合は、1 次 IDE ドライブ
15	取り付けられている場合は、2 次 IDE ドライブ

DMA 要求	データ幅	システム・リソース
0	8 ビット	使用可
1	8 ビット	使用可
2	8 ビット	ディスク
3 ³	8 ビット	パラレル・ポート
4	-	予約済
5	16 ビット	使用可
6	16 ビット	使用可
7	16 ビット	使用可

³ 設定値を変更するよう修正したり、使用不可にしたりできます。

付録C. 特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

IBM	Wake on LAN	IntelliStation
ThinkPad	Netfinity	PC 300

Intel、Pentium、MMX および Celeron は Intel Corporation の商標または登録商標です。

他の会社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークである場合があります。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

アクセス・ドライブ・ベイ 45
アダプター

エラー・メッセージ 69

ケーブルの引き回し 28

構成 73

従来型 24

スロット 22

タイプ 23

取付け 25

取外し 38

プラグ・アンド・プレイ 23

リソースの競合 23, 24, 69

アダプター用拡張スロット 22

アップグレード

マイクロプロセッサ 17

メモリー・モジュール 11

安全

情報 v

手順と指針 1

電池の取扱い 77

安全上の注意、電池 77

位置決め

アダプター 22

拡張スロット 22

システム・ボード構成部品 10

ドライブ・ベイ 40

内部構成部品 7

インターネット・ホーム・ページ 2

エラー・メッセージ、リソースの競合 23, 69

オプション

アダプター 23

インターネット・ホーム・ページ 2

機密保護 61

オプション (続き)

使用可能な 2

説明 1

内蔵ドライブ 40, 42

マイクロプロセッサ 17

メモリー・モジュール 11

〔カ行〕

回転、ドライブ・ケージの 49, 56

カバー

解放止め金 6

サイドの取外し 29

再取付け 67

再取付け、サイド 30

取外し 5, 45

ロック 5, 67

キーボード・ポート 8

基本 PCI スロット 22

機密保護オプション 61

ケーブル

アダプターからコンピューター内部のドライブ
の引き回し 28

コンピューター内部の信号ケーブルの引回し
52

接続 68

取外し 5

内蔵ドライブのタイプ 43

IDE 43

交換

カバー 67

サイド・カバー 30

電池 77

マイクロプロセッサ 17

交換用電池、の注文 77

構成

アダプター 23, 69

競合の解決 69

情報の消去 62

構成 (続き)
装置、の更新 69
メモリー・モジュール 12
構成部品、内部の位置 7
固定ディスク・ドライブ 42
コネクタ
システム・ボード上の 10
入出力 8

〔サ行〕

サイド
カバー取外し 29
カバーの再取付け 30
システム・ボード
オプション 9
構成部品 2
図 10
説明 10
パーツの識別 10
ラッチ 32
レイアウト 10
システム・ボード・パーツの識別 10
システム・メモリー
増設 11
目的 11
DIMM の取付け 13
DIMM の取外し 15
始動装置、構成 74
シャシー侵入検出スイッチ 7
ジャンパー
システム・ボード上の位置 10
CMOS クリア 62, 75
従来型アダプター 24, 73
従来型の ISA リソース 23, 69
商標 81
シリアル・ポート 8
スイッチ設定
システム・ボード上の位置 10
スロット
アダプター 25
拡張 22, 25

静電気に敏感な装置、その取り扱い 4
接続
ケーブル、外部 68
内蔵ドライブ 43
内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 56
入出力装置 8
設定、パスワード 75
設定、マイクロプロセッサ速度の 76
増設
アダプター 25
内蔵ドライブ 49, 51
内蔵ドライブ、ベイ 4 59
メモリー・モジュール (DIMM) 13
装置
始動 74
静電気の影響を受けやすいものの取扱い 4
装置構成の更新 69
装置構成ユーティリティー
開始 70
始動装置 74
従来型の ISA リソース 23, 69
終了 72
使用法 69
設定の変更 72
メイン・メニュー 71
目的 69
リソースの競合 23, 69

〔タ行〕

ダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソース 80
注意
静電気の影響を受けやすい装置の取扱い 4
電池の取扱い 77
ツール、必須 3
テープ・ドライブ 40, 42
ディスク・ドライブ、ハード 40, 42
ディスクレット・ドライブ 40, 42
ディスクレット・ドライブ・コネクタ、位置 10

- デバイス・ドライバー 69
- 電源コード
 - コネクタ (内部)、位置 10
 - 接続 68
 - 取外し 5
 - 内蔵ドライブ 43
- 電池の廃棄 77
- 電話線
 - 接続 68
 - 取外し 5
- 特記事項 81
- ドライブ
 - ケーブル 43
 - 仕様 42
 - ベイ 40
 - 参照：内蔵ドライブ
- ドライブケース
 - 回転 49, 56
 - ドライブの取付け 51
 - ドライブの取外し 54
 - 変換キット 41
- ドライブ・ケース 41, 43
- 取扱い方法
 - 静電気の影響を受けやすい装置 4
 - 電池 77
- 取付け
 - アダプター 25
 - オプション 2
 - 概要 1
 - カバー 67
 - 静電気の影響を受けやすい装置 4
 - 電池 79
 - 内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 49, 51
 - 内蔵ドライブ、ベイ 4 59
 - ベイ・パネル 48
 - マイクロプロセッサのアップグレード 17
 - メモリー・モジュール (DIMM) 13
- 取付け準備 5
- 取付けの完了 66
- 取外し
 - アダプター 38
 - カバー 6

- 取外し (続き)
 - 管理者パスワード 62
 - ケーブル、外付け 5
 - サイド・カバー 29
 - 始動パスワード 62
 - 電池 79
 - 内蔵ドライブ、ベイ 1、2、および 3 からの 49, 54
 - 内蔵ドライブ、ベイ 4 から 57
 - ベイ・パネル 47
 - マイクロプロセッサ 17
 - メモリー・モジュール (DIMM) 15

〔ナ行〕

- 内蔵ドライブ
 - オプション 40, 42
 - ケーブル 43
 - 説明 40
 - タイプ 40, 42
 - 高さ制限 21, 40
 - 高さの要件 42
 - 取付け、ベイ 1、2、および 3 49, 51
 - 取付け、ベイ 4 59
 - 取外し、ベイ 1、2、および 3 からの 49, 54
 - 取外し、ベイ 4 から 57
 - ベイ 40, 42
- 内蔵ドライブ用の信号ケーブル 43

〔ハ行〕

- ハード・ディスク・ドライブ 40, 42
- パスワード
 - 除去 62
 - 設定 75
- バッテリー
 - 安全上の注意 77
 - 交換 77
 - 交換用電池の注文 77
 - システム・ボード上の位置 10
 - 取扱い上の注意 77
 - 廃棄 77

バッテリー (続き)

リチウム・電池に関する注意 78

パラレル・ポート 8

引き回し、ケーブルの

アダプターからコンピューター内部のドライブ
へ 28

信号、コンピューター内部 52

ファン・アセンブリー 36

プラグ・アンド・プレイ

アダプター 23

プレーナー

参照：システム・ボード

プロセッサ

参照：マイクロプロセッサ

ベイ、ドライブ 40

ベイ・パネル 41

取付け 48

取外し 47

変換キット、ドライブ・ケージ 41, 42

ポート 5, 68

ホーム・ページ、IBM パーソナル・コンピューター
の 2

〔マ行〕

マイクロプロセッサ

アップグレード 17

交換 17

システム・ボード上の位置 10

速度の設定 76

マウス・ポート 8

マザーボード

参照：システム・ボード

メモリー

参照：システム・メモリー

メモリー・モジュール

構成 12

システム・ボード位置 10

タイプ 11

取付け 13

取外し 15

モニター・コネクタ 8

〔ヤ行〕

ユーティリティ・プログラム、のセットアップ
69

〔ラ行〕

ライザー・カード

拡張スロット 22

システム・ボード上の位置 10

図 22

ISA スロット 22

PCI スロット 22

ラッチ、システム・ボード 10

ラッチ、システム・ボードの 32

リソースの競合 21, 40, 69

リソースの競合、エラー・メッセージ 23

リボン・ケーブル 43

レーザーの安全性について x

ロック、カバー 5, 67

〔ワ行〕

わからなくなった始動パスワード、の除去 62
割込みリソース 80

C

CD-ROM ドライブ 7, 40, 42

CMOS のクリアー 62

D

DIMM

参照：メモリー・モジュール

DMA (ダイレクト・メモリー・アクセス) リソース
80

I

IDE 装置

接続 43

1 次コネクタ 10

2 次コネクタ 10

ISA スロット 22

P

PCI スロット 22

U

USB ポート 8

W

Wake on LAN、ハードウェア 2

World Wide Web ホーム・ページ 2

Printed in Japan

1998 年 1 月

日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-5856- 2